2023-2024水工学委員会委員（2023/12/12現在）

資料2302－1－1

顧問

中川　一	京大防災研
寶　馨	京大防災研
道奥 康治	法政大学
中北　英一	京大防災研
清水 康行	北海道大学
清水 義彦	群馬大

委員

NO.	氏名	所属	役職，担当	種類	幹事
1	泉 典洋	北大	委員長，水理公式集例題集編集小委員会委員長	専門1	
2	佐山 敬洋	京大防災研	幹事長	専門2	
3	小田　僚子	千葉工業大	編集幹事長	専門3	
4	矢野 真一郎	九州大	前幹事長，水シンポ2023佐賀企画部会長	専門4	○
5	溝口 敦子	名城大	前編集幹事長，河道管理研究小委員会幹事長	専門5	○
6	高橋 正行	日大	基礎水理部会部会長	専門6	○
7	椿　涼太	名古屋大		専門7	○
8	風間 聡	東北大	水理・水文統計解析研究小委員会委員長	専門8	○
9	入江 政安	大阪大	水工学講演会担当，海岸工学委員会交換委員	専門9	
10	竹林 洋史	京大防災研	水害対策小委員会委員長，日本建築学会「水害・土砂災害等による建築物等の被災調査マニュアル検討WG」委員（水工学委員会からの選出委員）	専門10	○
11	大石 哲	神戸大		専門11	
12	手計　太一	中央大	河川観測高度化研究小委員会委員長、水理公式集例題集編集小委員会幹事長	専門12	○
13	森脇　亮	愛媛大		専門13	○
14	中山 恵介	神戸大		専門14	
15	田端　幸輔	国総研		専門15	
16	音田 慎一郎	京都大学		専門16	
17	川村 里実	寒地土木研究所		専門17	
18	山田 朋人	北大		北海道1	
19	岩崎　理樹	北大	水工ML，2023年度夏期研修会	北海道2	○
20	梅田　信	日本大学工学部	水工ML	東北1	○
21	川越 清樹	福島大		東北2	
22	二瓶 泰雄	東京理科大	河川懇談会幹事長，インフラ体力診断小委員会幹事，研究企画委員会委員（水工学委員会からの選出委員）	関東1	
23	鼎 信次郎	東工大		関東2	
24	田中 規夫	埼玉大		関東3	○
25	宮本 仁志	芝浦工大	出版委員会委員	関東4	○
26	芳村 圭	東大		関東5	
27	平林　由希子	芝浦工業大	本部理事	関東6	○
28	石川 博基	国交省・河川計画課河川計画調整室長		関東7	
29	瀬崎 智之	国総研		関東8	
30	柿沼 太貴	土木研究所（ICHARM）		関東9	
31	佐藤　隆宏	電中研		関東10	
32	陰山　健太郎	日本工営		関東11	
33	荒木　千博	建設技術研究所		関東12	
34	渡邊　武志	パシフィックコンサルタンツ		関東13	
35	中村　要介	三井共同建設コンサルタント		関東14	
36	岡村　誠司	いであ		関東15	
37	戸田 祐嗣	名古屋大	土木学会論文集編集小委員会委員長，河道管理研究小委員会委員長，土木学会インフラメンテナンス総合委員会・知の体系化小委員会委員，健康診断小委員会幹事	中部1	○
38	谷口　健司	金沢大		中部2	
39	武田　誠	中部大	水工学オンライン運営小委員会委員長	中部3	
40	市川 温	京大	水文部会部会長，流域管理と地域計画連携方策研究小委員会幹事	関西1	○
41	川池　健司	京大防災研	IAHR Japan chapter幹事長	関西2	
42	小林　健一郎	神戸大	グローカル小委員会委員長，水理・水文統計解析研究小委員会幹事長，地球環境委員会交流委員(グローカル)	関西3	○
43	田中　賢治	京大防災研		関西4	○
44	山上 路生	京大		関西5	
45	山口　弘誠	京大防災研		関西6	
46	赤松　良久	山口大	環境水理部会長	中国1	○
47	内田　龍彦	広島大	河川部会部会長，土木学会論文集編集委員会電子化小委員会副委員長	中国2	
48	高橋直己	香川高専		四国1	○
49	杉原 裕司	九州大		西部1	
50	重枝 未玲	九工大	HP担当，水工学オンライン小委員会副委員長，水シンポ2023佐賀担当	西部2	○

オブザーバー（定員外）

大槻 順朗	山梨大学	水害対策小委員会幹事長
五十里 洋行	京都大学	海岸工学委員会交流委員
深見　和彦	河川情報センター	ISO/TC113小委員会委員委員長、ISO対応特別委員会委員
呉 修一	富山県立大学	2024年度水工学講演会担当

2023-2024 水工学委員会（2023/12/12現在）

泉　典洋　委員長

- 沿岸環境関連学会連絡協議会
- 沿岸域における気候変動適応策に関する研究会
  渡部哲史 委員
  （グローカル小委より）
- 地球環境委員会
  小林健一郎 委員
  （グローカル小委員長）
- 海岸工学委員会
  入江政安 委員
- 環境システム委員会
  赤松良久 委員
  （環境水理部会長）
- 構造工学委員会
  土木構造物共通示方書編集委員会
  諏訪義雄 委員
- ISO対応特別委員会
  深見和彦 委員
  （ISO/TC113小委員長）

水工学委員会・土木計画学委員会

流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会
立川康人　座長

国土交通省
水管理・国土保全局
都市局
産業界

河川懇談会
中北英一 座長
二瓶泰雄 幹事長

国土交通省
水管理・国土保全局

水工学講演会
2023（第68回・大阪）入江政安　委員
2024（第69回・富山）呉　修一　委員

水シンポジウム
2023（第27回・佐賀）佐賀大　大串浩一郎先生
2024（第28回・長野）信州大　吉谷純一先生

水工学に関する夏期研修会
2023（第58回・札幌）岩崎理樹 委員
2024（第59回・関西）基礎水理部会担当

ホームページ担当
重枝未玲 委員

ML担当
岩崎理樹 委員
梅田信 委員

幹事会
佐山敬洋 幹事長

部　会

- 水文部会
  市川 温 部会長
- 基礎水理部会
  高橋正行 部会長
- 環境水理部会
  赤松良久 部会長
- 河川部会
  内田龍彦 部会長

研究小委員会

- 河川観測技術高度化研究小委員会
  手計太一 委員長
  小山直紀 幹事
- グローカル気候変動適応研究推進小委員会
  小林健一郎 委員長
  渡部哲史 幹事長
- 河道管理研究小委員会
  戸田祐嗣 委員長
  溝口 敦子 幹事長
- 水理・水文統計解析研究小委員会
  風間聡 委員長
  小林健一郎 幹事長

常置小委員会

- 土木学会論文集（特集号）編集小委員会
  小田僚子 幹事長
- 水害対策小委員会
  竹林洋史 委員長
  大槻順朗 幹事長
- 水理公式集編集小委員会
  泉 典洋 委員長
  ~~（水工学委員会委員長）~~
- 水理公式集例題集編集小委員会
  泉 典洋 委員長
  手計太一 幹事
- ISO/TC113小委員会
  深見和彦 委員長
- 水工学オンライン小委員会
  武田 誠 委員長
  重枝未玲副委員長
  柏田 仁幹事

インフラ体力診断小委員会
二瓶 泰雄 委員

- 研究企画委員会
  二瓶泰雄 委員
- 出版委員会
  宮本仁志 委員
- 論説委員会
  渡部哲史 委員
- 土木学会論文集編集委員会
  編集調整会議
  泉　典洋 委員長
  （水工委員会委員長）
  電子化小委員会
  内田龍彦 副委員長
- 水圏工学編集小委員会
  戸田 祐嗣　委員長
  山中亮一 幹事長
  内海信幸 幹事
  厳島怜 委員
  遠藤徹 委員
  梶川勇樹 委員
  相馬一義 委員
  原田守啓 委員
  吉田圭介 委員
- 減災・防災委員会
  竹林洋史委員（水害対策小委員長）
  緊急対応マネジメント小委員会
  大槻順朗幹事（水害対策小幹事長）
- インフラメンテナンス総合委員会
  健康診断小委員会
  戸田祐嗣 幹事
  知の体系化小委員会
  戸田祐嗣 委員

2023年度スケジュール（R5.12/12現在.）

資料2302-2

	水工学委員会，編集小委員会	部会，小委員会	その他（共催）
2023年4月			
5月	5/24 第一回編集小委員会(O) 5/31 水工学論文集締切		
6月	6/1 第一回水工学委員会(O) 6/6 第一回編集小委員会幹事会(O) 6/7～9 第二回編集小委員会(M)	6/22-23 河川部会・河川シンポジウム(H)	
7月	7/14 第三回編集小委員会(M)		
8月	8/3-4 水シンポジウム in さが（執行部＋環境水理部会） 8/31-9/1 水工学に関する夏季研修会@北大		
9月	9/20 第四回編集小委員会(M)	9/11-15 土木学会全国大会（広島）	
10月		10/?? 環境水理部会研究集会	
11月			
12月	12/11-13　第68回水工学講演会@大阪 12/12　第二回水工学委員会 12/12　アゲールシンポ（グローカル小委員会）		
2024年1月			
2月			
3月	3/??　第三回水工学委員会(O)	3/5 基礎水理シンポジウム	
4月	河川災害シンポ（水害対策小委員会）(H)		
5月	5/31 水工学論文集締切		

注：(M)はメール審議，(O)はオンライン開催, (H)はハイブリッド開催.

<u>2024年度スケジュール</u>

6月20日、21日　河川シンポ（土木学会講堂・オンライン併用）

10月31日、11月1日　水シンポ in ながの

8月29日、30日　夏期研修会（海工担当：大阪公立大学）

12月2日～4日　第69回水工学講演会（富山）

2023年度水工学に関する夏期研修会

開催地：北海道札幌市　北海道大学工学部

日時：　8月31-9月1日

実施形態：完全対面形式．Slidoなどを使って質疑応答などに使用．1日目終了後，懇親会実施

テーマ：水工学に関する国際的話題，今後我が国で取り組むべき課題

講義受講者：

　Aコース53名（学生6名）　Bコース59名（学生10名）

懇親会参加者：

　Aコース17名（講師6名）　Bコース25名（講師5名）

テキストは電子配布のみ（紙配布は廃止）

■　8月31日（木）

A コース（河川・水文）		B コース（海岸・港湾）	
9:00～10:30	清水康行（北海道大学）：河川に関する国際プロジェクト iRIC を例とした国際的取り組み		
10:45～12:15	泉典洋（北海道大学）：河川地形力学研究の世界最前線	10:45～12:15	森信人（京都大学）：気候変動を考慮した沿岸ハザード評価における国際的取り組みのこれまでとこれから
13:15～14:45	佐藤愼司（高知工科大学）：海岸工学における学融合とグローバル化		
15:00～16:30	田中規夫（埼玉大学）：植生水理学にかかわる研究動向	15:00～16:30	内山雄介（神戸大学）：国際的な情報発信の重要性～Coastal Engineering Journal を例に～

■　9月1日（金）

A コース（河川・水文）		B コース（海岸・港湾）	
9:00～10:30	山田朋人（北海道大学）：諸外国の豪雨災害事例と気候変動を含めた風水害リスク	9:00～10:30	有働恵子（東北大学）：気候変動を考慮した海岸地形研究における国際動向と今後の課題
10:45～12:15	片岡智哉（愛媛大学）：水圏におけるプラスチック動態に関する国際的な研究動向	10:45～12:15	田島芳満（東京大学）：国際的な海岸災害研究のこれまでとこれから
13:15～14:45	椿涼太（名古屋大学）：河川の観測に関する研究動向と我が国が取り組むべき課題	13:15～14:45	伊藤一教（大成建設）：ボスポラス海峡横断鉄道トンネルを対象にした国際プロジェクトと技術開発
15:00～16:30	手計太一（中央大学）：東南アジアにおける水工学研究の将来	15:00～16:30	渡部靖憲（北海道大学）：若手海岸研究者のための英文雑誌投稿への準備，執筆，査読対応の基礎講座

共通講義

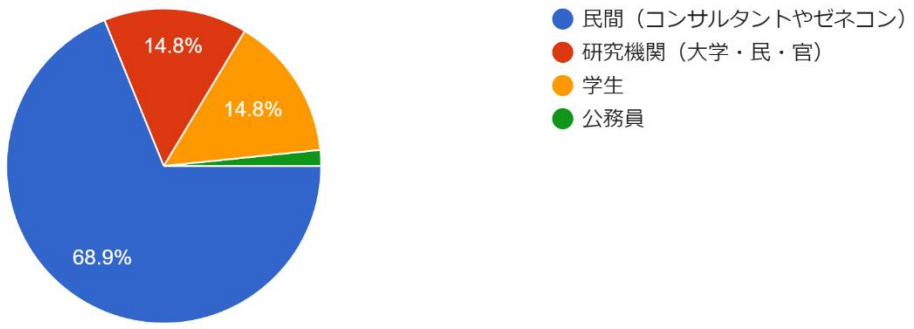
Aコース講義

Bコース講義

懇親会

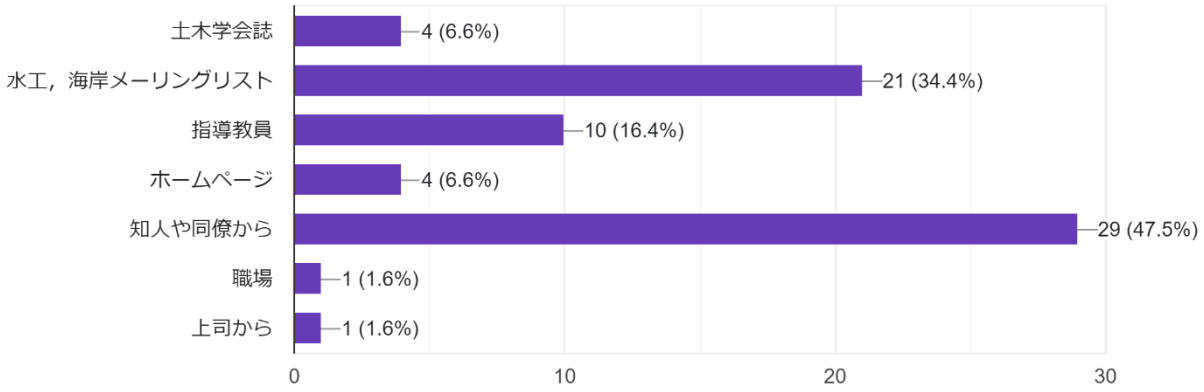
職業についてお答えください.

61 件の回答



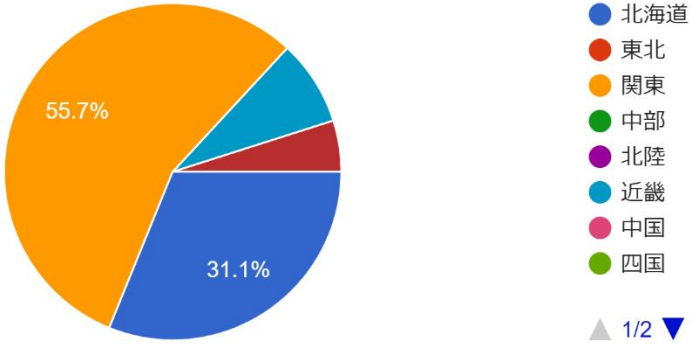
本研修会をどのように知りましたか？（複数回答可）

61 件の回答



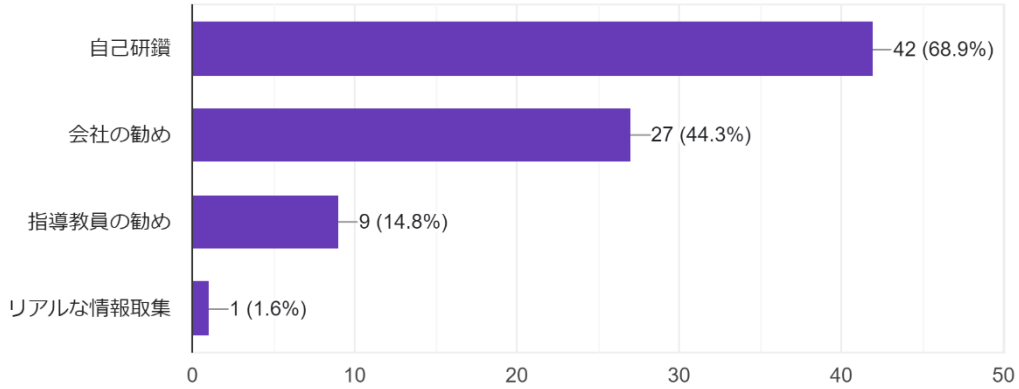
お住いの地方についてお答えください.

61 件の回答



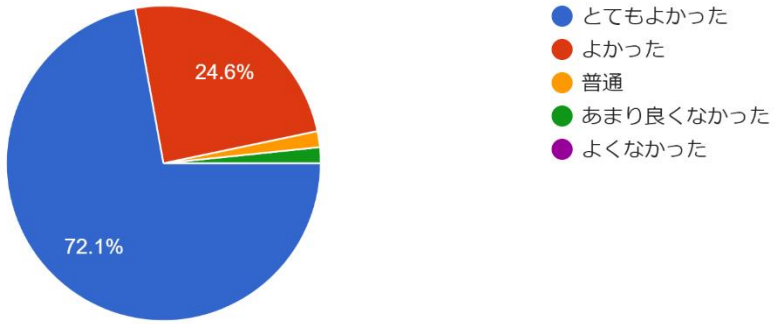
研修会に参加された理由をお答えください（複数回答可）

61 件の回答



研修会に参加してよかったと思いますか？

61 件の回答

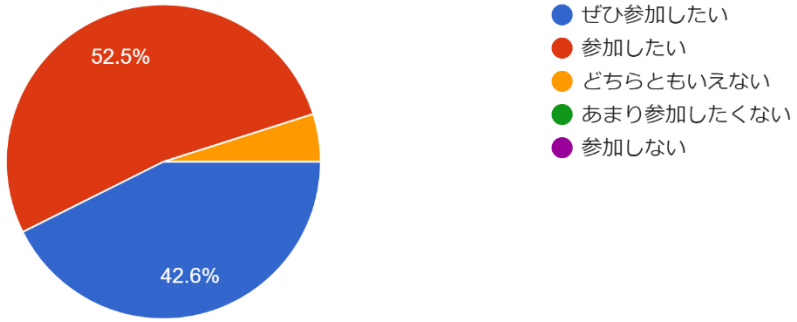


今回は完全対面形式で行いましたがそれについてどう思いますか？

61 件の回答

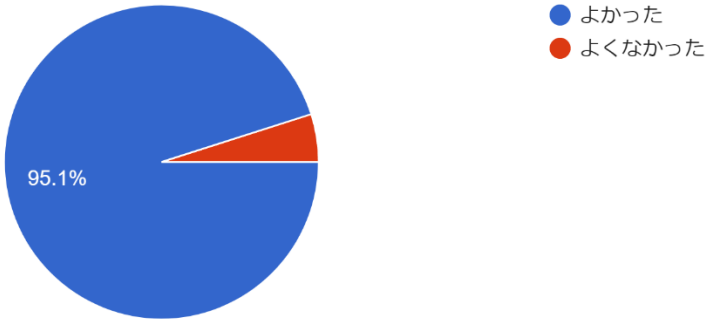
今後の講習会にも参加したいと思いますか？

61 件の回答



質問の受付としてslidoを試行しましたがどう思いましたか？

61 件の回答



今回は懇親会を実施しましたがどう思いましたか？

47 件の回答

〇今後改善したほうが良いと思われる項目と改善方向があれば提案をお願いします.

・教室の快適さ（エアコンがなかった）　←　多数
・今回の大成建設さんのような、企業による講義をもう少し取り入れていただきたいと感じました。
・質疑応答の時間を明確に設けるのもよいと思います.
・音声関係（マイクの音量が小さいなど）
・可能でしたら、先生方のスライドを全て頂けるとメモなどが容易にできるので、ありがたいと感じました。

〇今後取り上げてほしいテーマがありましたらお書きください.

・災害調査のやり方や心構え、事例など
・MP,SMPについては、河川・海岸＋海洋となるため、広域的な研究が必要では。
・シミュレーション技術について（波浪、土砂輸送、環境など）
・水理学の基礎研究
・ヨーロッパが考える洋上風力発電について、DXに関わる内容
・気候変動に関する最新動向。施工等の実務事例
・様々な事例を知ることができ、興味深く大変参考になった。
現場の視点で様々な事例等をもっと知りたいと思った。
・DX, 気候変動
・海岸や波浪の計算モデルについて
・今研修会でもテーマにされていた、海外の動向、世界で議論されているテーマ等を継続的に紹介して欲しい。
・論文の書き方講座は大変参考になりました。10年に一度くらい、次の世代の方にも受け継が得れると良いと思いました。他分野の人（DXとか）を招いて俯瞰的な講演をしてもらっても良いと思います。
・土砂動態に関してより広く取り扱ってほしい
・洋上風力発電について
・複合災害

○収支状況について

土木学会　行事に関する《報告》書

1	開催行事名	第58回水工学に関する夏期研修会Aコース、Bコース						
		行事No.：	232302					
2	担当委員会名	水工学委員会、海岸工学委員会						
3	開 催 期 日	a．2023年8月31日（木）～9月1日（金）			b．			
4	開催場所	a．北海道大学　工学部			b．			
5	参加者数	112						
6	参加費	b:テキスト代含む						
7	テキスト代	b:参加費に含む						
8	テキスト印刷・販売	印刷総部数	贈呈部数	参加者引換部数	著者引換部数	当日販売部数	残部数	
		0	0	0	0	0	0	
10	テキスト形式	版	その他	ページ数	Web			
9	出版会計書籍の使用	a:無						

※拡充支援金の計算時には出版会計書籍の買上費に関しては収支には含みません.

※行事報告書提出期日：12月1日　行事終了日より原則3カ月以内に提出すること。

◇ 収入の部

単位:円

会計科目		項　目		金 額	算 出 根 拠					
事業収益	1	会員非会員	参加費	@	1,536,000	@	16,000	円	×	96 名
	2	学　生	参加費	@	160,000	@	10,000	円	×	16 名
	3	当日分	テキスト代	@	0	@		円	×	冊
	4									
	5	テキスト作成に伴う著者負担金								
	6	広告(業界案内)・スポンサー収入								
	7	その他収入 a.	( )							
	8	その他収入 b.	( )							
		事業収益合計A			1,696,000					
寄付金等	9	寄付金等( )								
		寄付金等合計B			0					
収入合計					1,696,000					

◇ 支出の部

会計科目		項　目	金 額	算 出 根 拠
臨時雇人給	1	ｱﾙﾊﾞｲﾄ代		
旅費交通費	2	講師・司会者への旅費	294,485	
	3	会議旅費・職員旅費	96,722	
備品消耗品費	4	受付用文房具・会場看板など		
発送・通信費	5	通信費・連絡費など	1,554	備品発送費
手数料	6	各種手数料(振込手数料等)など		
賃借料	7	会場使用料	185,600	
	8	付属備品使用料		
	9	その他賃借料		
会議費	10	講師・司会・委員等の打合会議費		
広報宣伝費	11	ﾎﾟｽﾀｰ作成費		
報告書等製作費	12	ﾃｷｽﾄ発行費・発送費		
図書等仕入費	13	ﾃｷｽﾄ買上費		
	14	ﾃｷｽﾄ以外の教材費		
謝金・賞金	15	講師・司会者への謝礼金	579,111	講演料217,165　原稿料361,946
	16	その他(　)		
ｼｽﾃﾑ等使用料	17	投稿ｼｽﾃﾑ等使用料		
事業諸経費	18	その他支出 a.(修了証)	7,445	
	19	その他支出 b.(参加証)	3,326	
	20	その他支出 c.( )		
	21	予備費		収入合計の3%程度
支出合計			1,168,243	
管理費相当額 A			508,800	事業収益合計Aの30%
管理費相当額 B			0	補助金等合計Bの5%
収支差額			18,957	

備 考:

実際には＋34万ほどかかっており赤字
↑
水工，海岸工学両委員会執行部に相談の上，委員会活動費より補填いただいた.

赤字要因として

- 札幌開催効果を期待したが，参加者は思ったほど伸びなかった.
- 観光シーズンであり，札幌の宿泊費が高額で参加の足かせになった.
- 地方開催であるため，講師旅費が増加.

水シンポジウム2023 in さが

事務局：佐賀県県土整備部河川砂防課

会場：佐賀市文化会館中ホール
日時：令和5年8月3日木曜，4日金曜
　　3日シンポ，4日現地見学会

テーマ：　SAGA水ものがたり　有明海と流域の営みにより作られた佐賀平野、成富兵庫から今に引き継ぐ流域治水

第一分科会（環境水理部会担当）
　有明海沿岸におけ森・水・海のつながり（コーディネータ：赤松良久）
第二分科会（佐賀水ネット担当）
　低平地を有する六角川流域の流域治水を考える（コーディネータ：荒巻軍治）

水シンポジウム2023 in さが

特別講演

中北英一氏（京大）「我が国の治水計画における2つのパラダイムシフト」

現地見学

① さが水ものがたり館・石井樋
② 嘉瀬川ダム
③ 牟田部遊水地
④ 佐賀城本丸歴史観
⑤ 東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」

参加者数：シンポ　322名，見学会　14名

第一分科会からの提言

- “佐賀平野の水”について皆で考え，治水、利水、環境機能の向上のための水の有効活用を目指す
- 佐賀平野に広がる水路網に支えられる希少な淡水魚の保全を目指す
- 有明海の富栄養化の問題解決のために，有機懸濁物を餌にする二枚貝の増殖を目指す
- 水利用・水環境への気候変動の影響の解明と適切な対応による良好な水環境の維持や，流域治水を利用した水環境の維持・向上を目指す

第二分科会からの提言

- 鍋島藩による歴史的流域治水の取り組みに学び，地域の河川特性に合わせた知恵を！
- 六角川の長い干潮区間は日本のメコン川．関係者が水害対策を自分事として捉え，地域の理解と協力が不可欠.
- 住まい方を工夫する．遊水池を潰さない．　低平地河川・六角川のリデザイン(コモンの再構築)自ら(水)考えよう!
- 農民たちが水に感謝する佐賀の伝統に学べ！

水シンポジウム2023 in さが からの発信

- ✓ 科学的気候変動予測によって水害外力の増加が予測される中，流域全体のすべての人で対応し，溢れても被害を最小限にする流域治水が必要とされている.
- ✓ 水利用・水環境に対する気候変動の影響を解明し適切な対応を行い，豊かな水環境を維持し，流域治水を利用した水環境の維持向上を目指そう.
- ✓ 佐賀平野に培われてきた「在来知」と近代的科学技術的手法を組み合わせた流域治水を目指そう.

佐賀平野の水マネジメント文化に学び，豊かな水環境を守りながら気候変動に向けた新たな流域治水へ！

基礎水理部会活動報告

2023 年度第 2 回土木学会水工学委員会 2023 年 12 月 12 日（火）

１．　基礎水理部会 会議の開催

第 1 回　2023 年 9 月 14 日（木）　12:10-12:50 開催（広島大学東広島キャンパス＋teams）

第 2 回　水工学講演会期間中の 2023 年 12 月 13 日（水）昼　開催予定（ハイブリッド）

第 3 回　基礎水理シンポジウム 2023（2024 年 3 月 5 日）に合わせて開催予定

２．　基礎水理部会ワーキング・グループ活動報告

- **流砂・河床変動に関する若手WG（代表：音田慎一郎）**

  第10回流砂・河床変動に関する勉強会

  日時：2023年8月28日（月）

  場所：北海道河川財団会議室

- **生態水理に関するWG（代表：原田 守啓）**

  生態水理研究会－Ecohydraulics やろうぜ！

  日時：2023 年 9 月 20 日

  場所：応用生態工学会第 26 回京都大会

- **数値解析支援ツールに関する WG（代表：旭一岳）**

  WG を定期的に実施（第 3 金曜日 16 時～・基本オンライン）

３．基礎水理シンポジウム 2023　（資料２）

基礎水理シンポジウム 2023 では，キーワードに「計測，流れ，構造物周辺，局所流」を選び，流体(乱流・流量・水位・気象関連)・流砂の計測の話題になるように，講演依頼中です．

主催： 公益社団法人 土木学会 水工学委員会 基礎水理部会

日時： 2024 年 3 月 5 日（火）

会場：土木講堂

参加料： 無料

講師（案）：

・講演 1：〇萬矢敦啓（国立研究開発法人　土木研究所，河道保全研究グループ，河道監視・水文チーム）　，岡田将治（高知工業高等専門学校），橘田隆史（ハイドロシステム開発）

・講演 2：椿涼太（名古屋大学）

・講演 3：吉田圭介（岡山大学）[依頼中]

・講演 4：武若聡（筑波大学）[依頼中]

・講演 5：渡部靖憲（北海道大学）[依頼中]

河川部会報告

2023.12.12 水工学委員会資料

河川部会の主な活動（2023.6.1以降）

- *河川技術シンポジウム(6/22-6/23)*
- *河川技術シンポジウム反省会(7/21 オンライン)*
- *第一回河川部会 (8/10 12:00～ハイブリッド)*
- *水工学オンライン連続講演会河川技術論文賞受賞者講演～これからの治水について考える～ (8/10 17:00～)*
- *第二回河川部会 (11/2 13:00～オンライン)*
- *2024年度シンポジウム企画案と河川技術論文集第30巻の募集(11/5)*

- 第三回河川部会 (2024.2/19 13:00～ハイブリッド)予定
- 第四回回河川部会 (2024.4/26 13:00～ハイブリッド)予定
- 河川技術シンポジウム(6/20-6/21) 対面拡大ハイブリッド 土木学会予定

河川部会員名簿
(2023.11.2付)

No	役割	氏　名	分類
1	部会長	内田　龍彦	学
2	副部会長	瀬﨑　智之	官
3	副部会長	堀江　克也	民
4	委員	安達 孝実	官
5	委員	碇　正敬	民
6	委員	岩見　収二	民
7	委員	宇都　洋一	民
8	委員	太田　一行	民
9	委員	尾花　まき子	学
10	委員	柄沢　祐子	官
11	委員	川池　健司	学
12	委員	呉　修一	学
13	委員	近者　敦彦	民
14	委員	武内　慶了	官
15	委員(幹事長)	竹村　吉晴	学
16	委員(幹事)	田端　幸輔	官
17	委員	知花　武佳	学
18	委員	椿　涼太	学
19	委員	鶴田　舞	官
20	委員	中村　圭吾	官

No	役割	氏　名	分類
21	委員	西口　亮太	民
22	委員	原田　守啓	学
23	委員	藤田　士郎	官
24	委員	本田　隆英	民
25	委員	舛田　直樹	官
26	委員	松田　浩一	民
27	委員	溝口　敦子	学
28	委員	安井 辰弥	官
29	委員	山田　拓也	官
30	委員	吉川　泰弘	学
31	委員	萬　和明	学
32	幹事	猪股　広典	官
33	幹事	髙橋　一徳	民
34	幹事	柏田　仁	学
35	幹事	見上　哲章	民
36	幹事	小山　直紀	学
37	事務局	那須　珠実	

民:9名　学:11名（内交流3）　官:11名　合計31名
幹事5（民2・学2・官1），事務局1名

2023年度 河川技術シンポジウム・河川技術論文集 vol.29（報告）

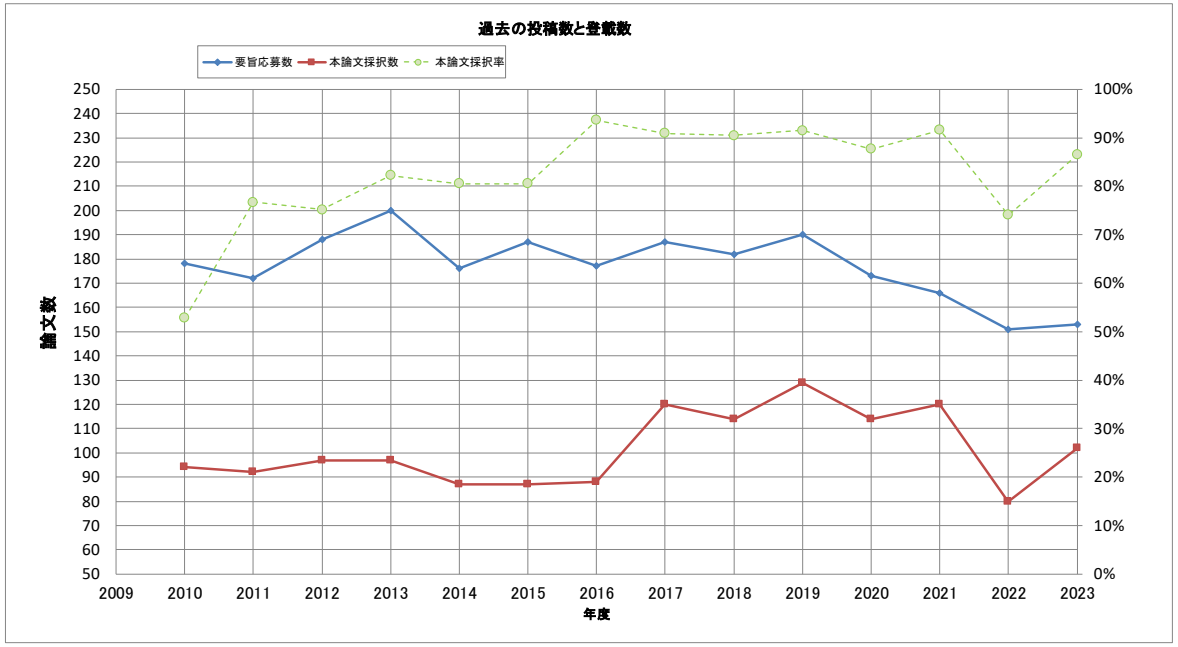
オーガナイズドセッション（ハイブリッド）の様子

シンポジウム終了時の様子（オンライン開催）

論文投稿数などの推移

	Vol.16	Vol.17	Vol.18	Vol.19	Vol.20	Vol.21	Vol.22	Vol.23	Vol.24	Vol.25	Vol.26	Vol.27	Vol.28	Vol.29
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
要旨応募数	178	172	188	200	176	187	177	187	182	190	173	166	151	153
要旨採択数	130	132	129	118	108	112	94	142	143	161	139	141	119	127
要旨採択率	73%	77%	69%	59%	61%	60%	53%	76%	79%	85%	80%	85%	79%	83%
本論文投稿数		120	129	118	108	108	94	132	126	141	130	131	108	118
本論文採択数	94	92	97	97	87	87	88	120	114	129	114	120	80	102
本論文採択率	53%	77%	75%	82%	81%	81%	94%	91%	90%	91%	88%	92%	74%	86%
修正後論文投稿数								119						
修正後論文採択数								119						
修正後論文採択率								100%						
全体採択率	53%	53%	52%	49%	49%	47%	50%	64%	63%	68%	66%	72%	53%	67%
総説	0	0	0	4	2	3	2			1	0	1	2	3
招待論文	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0
論文+報告	94	92	97	93	85	84	86			128	114	118	78	99
開催場所	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	—	オンライン	土木学会講堂・オンライン	土木学会講堂・オンライン

※辞退1編



2023優秀発表賞

HPで公表済.

R1-14 題目　:河川流・氾濫流一体解析による令和2年球磨川水害における建物流失率の検討
発表者:東京理科大学　柏田仁

R2-3 題目　:国内外の河川流・氾濫流解析モデルのレビュー ～3次元モデルに着目して～
発表者:東京理科大学　二瓶泰雄

R3-17 題目　:深層学習を用いたリアルタイム河川水位予測システムの開発と山口県全域への適用
発表者:山口大学大学院　福丸大智

R4-13 題目　:横断遮蔽物による河床洗掘現象を表現できる実用的数値解析手法の提案
発表者:阿南高専　長田健吾

R5-6 題目　:蛇行する低水路を有する複断面河道における洪水流の流下機構と河道内被災の分析と対策―令和2年7月球磨川洪水を例として―
発表者:中央大学研究開発機構　後藤岳久

R6-11 題目　:河道内の樹林化予測モデルの開発と予防保全の考え方にもとづく樹木管理への活用方策の検討 ～庄内川を事例として～
発表者:株式会社建設環境研究所　小田洋平

R7-10 題目　:Fault Tree 図と流況計算を活用した複断面河道における侵食・洗掘による破堤危険性評価の提案
発表者:パシフィックコンサルタンツ㈱ 坂野アイカ

収支

土木学会　行事に関する《行事報告書》書

1	開催行事名	2023年　度河川技術に関するシンポジウム						
		行事№：232304						
2	担当委員会名	水工学委員会河川部会						
3	開 催 期 日	a．令和5年6月22日、23日			b．令和　年　月　日～　月　日			
4	開催場所	a．ハイブリット（土木学会講堂、オンライン）			b．			
5	参加者数	585						
6	参加費	b:テキスト代含む						
7	テキスト代	b:参加費に含む						
8	テキスト印刷・販売	印刷総部数	贈呈部数	参加者引換部数	著者引換部数	当日販売部数	残部数	
		200	0	200	0	0	0	
10	テキスト形式	版	A４	ページ数	500			
9	出版会計書籍の使用	a:無						

※拡充支援金の計算時には出版会計書籍の買上費に関しては収支には含みません.

※行事報告書提出期日：2023年9月23日：行事終了日より原則３カ月以内に提出すること。

◇ 収入の部

単位:円

会計科目		項　目	金 額	算 出 根 拠					
事業収益	1	会　員　参加費　@	2,541,500	@	6,500	円	×	391	名
	2	非 会 員　参加費　@	1,272,000	@	8,000	円	×	159	名
	3	学生会員　参加費　@	140,000	@	4,000	円	×	35	名
	4	当 日 分　テキスト代　@	133,900	@	1,300	円	×	103	冊
	5	テキスト作成に伴う著者負担金	1,224,000	@	12,000	円	×	102	
	6	広告(業界案内)・スポンサー収入	423,500	@	38,500	円	×	11	社
	7	その他収入 a.懇親会　（一　般）	0	@		円	×	0	名
	8	その他収入 b.懇親会　（学　生）	0	@		円	×	0	名
		事業収益合計A	5,734,900						
寄付金等	9	寄付金等（　　）							
		寄付金等合計B	0						
収 入 合 計			5,734,900						

◇ 支出の部

会計科目		項　目	金 額	算 出 根 拠
臨時雇人給	1	ｱﾙﾊﾞｲﾄ代		
旅費交通費	2	講師・司会者への旅費		
	3	その他旅費（ 部会旅費等　）	35,100	旅費　宿泊費
備品消耗品費	4	記録関係・受付関係など		
発送・通信費	5	DM発送代等の通信費・連絡費など	2,731	発送費
手数料	6	各種手数料(振込手数料等)など		
賃借料	7	会場使用料		
	8	付属備品使用料		
	9	その他賃借料(パネル用レンタカー)		
会議費	10	講師・司会・委員等の打合会議費	46,518	弁当代
広報宣伝費	11	ﾎﾟｽﾀｰ作成費等		
報告書等製作費	12	ﾃｷｽﾄ発行費＋発送費用	699,846	河川技術論文集Vol29 200部
図書等仕入費	13	ﾃｷｽﾄ買上費		
	14	ﾃｷｽﾄ以外の教材費		
謝金・賞金	15	講師・司会者への謝礼金		
	16	その他(賞状、トロフィー)	104,500	賞状、トロフィー(河川技術優秀発表賞、論文賞、優秀発表賞)
ｼｽﾃﾑ等使用料	17	EMｼｽﾃﾑ等使用料	660,000	EMシステム使用料
事業諸経費	18	その他支出 a.(システム費)	370,425	J-stageアップロード作業
	19	その他支出 b.(Zoom)	43,010	Zoom料金
	20	その他支出 c.()		
	21	その他支出 d.( )		
	22	その他支出 e.(　)		
	23	その他支出 f.( )		
	24	その他支出 g.(サーバーレンタル)	184,690	サーバー諸費用(3月末まで月ごと)
	25	予備費		
支 出 合 計			2,146,820	
管 理 費 相 当 額 A			1,720,470	事業収益合計Aの30%
管 理 費 相 当 額 B			0	補助金等合計Bの5%
収 支 差 額			1,867,610	

備 考:

J-stage費用 昨年度は+40万円支出させていただいたため，本年度は約140万円を予定.
13-14巻のJ-stage化を目指している（見積り次第）.

第22回 水工学オンライン連続講演会 報告
日時 8/10 17:00～
場所 土木学会講堂 & Zoom

河川技術論文賞受賞者講演～これからの治水について考える～

開催趣旨

河川部会では毎年，産官学連携のもとに河川技術シンポジウムを開催し，今後の河川技術について活発な議論を行っています．河川技術シンポジウムでの議論や問題意識を水工学の他分野に広く共有し，河川技術のさらなる展開や学際領域の拡大に貢献するため，令和4年度河川技術論文賞の受賞者に今後の展開を含めてご講演頂くとともに，受賞者をお招きして，ご講演の内容と河川技術シンポジウムでの議論を踏まえて，これからの治水について考える総合討論を行います．

今回は，対面・オンラインでの開催となり，対面ならでは熱量のある展開の早い議論を貴重な受賞論文講演とともにオンラインと併用して多くの皆様に伝えたいと思っております．

受賞講演1

「石狩川下流域における支川群の洪水流出特性と本川洪水への影響」

（著者：石井優太朗・吉村俊彦・福岡捷二）
講師：福岡 捷二 先生（中央大学 教授）

受賞講演2

「気候変動による降雨量の増加を考慮した基本高水の設定手法の検討」

（著者：齋藤正徳・石田卓也・小島淳・前田裕太・岡部真人）

講師：齋藤正徳先生（国土交通省 九州地方整備局川辺川ダム砂防事務所 所長）

総合討論（対面・Zoomのみ）

(オーガナイザー：内田龍彦，原田守啓，竹村吉晴)

第二回河川部会 議事録概要

日　　時：2023年11月2日(木)　13:00～　オンライン会議

0.　第1回河川部会委員会 議事録

1. 部会員など
(1)河川部会委員名簿
(2)部会員構成と役割(案)
(3)外部査読者・アドバイザー

2.　2024年度河川技術シンポジウムのスケジュール
(1)スケジュール概要
(2)2024年度河川シンポジウムの会場・運営方法(案)
・2024年度の河川技術シンポジウムを土木学会で開催することを第一案として，進め
(3)シンポジウムスケジュール　および　(4)論文集第30巻スケジュール等

3.　要旨査読方法

4.　2024年度河川技術シンポジウムのプログラム・会告文(案)

5.　河川技術論文賞(一次推薦)
・河川技術論文賞の第一推薦結果について審議し，部会員から了承を得た.
・【部会長/副部会長】水工学委員長に報告，了承を得た後，査読者選定，依頼に進む.
（水工学委員長の了承済）

6.　アウトスタンディングディカッション賞(案)
・アウトスタンディングディカッション賞(案)について説明があり，部会員から了承を得た.
・一日目のみ参加の人はグーグルフォームで行う，CPDでやるのは二日目に集約.
・事前に周知を行う.

7.　その他（口頭説明）
(1)河川技術論文集第29巻の公開について
(2)2023年度シンポジウム報告について現状報告
(3)その他
・河川技術論文集の和文論文とJ.JSCEのリンク
・堤防技術シンポジウム(2024.1.19，地盤工学委員会堤防研究小委員会主催，河川部会後援)の案内

河川技術シンポジウム(6/20-6/21)
対面拡大ハイブリッド 土木学会予定

2024年度河川技術に関するシンポジウム

2024年度河川技術シンポジウムは、2024年6月20日(木)、21日(金)に土木学会・オンライン併用(予定)で開催されます。

開催案内：

- 2024年度河川技術シンポジウム開催と河川技術論文集第30巻について
- 別紙　一般課題の募集テーマの説明

スケジュール：

- 要旨投稿締切　：**2024年1月12日(金)17時　【締切厳守！】**
- 本論文投稿締切：**2024年4月3日(水)17時　【締切厳守！】**

要旨投稿受付(ここをクリック)

- 河川技術論文集投稿規定(必ずご確認ください)
- 論文要旨テンプレート

土木学会 水工学委員会
河川部会

Contents

- 河川部会ホーム
- 河川部会について
- 河川技術に関するシンポジウム
- 河川技術論文賞　受賞者・受賞論文一覧
- これまでの活動
- 問い合わせ先
- リンク

ユーザログイン

ユーザ名 *
23094utida

パスワード *
••••••••••••

☐ ログイン状態を保持する
(共用パソコンではチェックを外してください)

- パスワードの再発行

ログイン

河川部会ホームページへようこそ

バングラデシュ人民共和国ジャムナ川にかかるジャムナ橋。ジャムナ川の川幅は広いところで20kmに達し、河床は顕著な複列砂州、網状流路を呈する。ジャムナ橋は最も狭まったところに建設され、全長約 5kmである。

土木学会水工学委員会河川部会

2024年度河川技術シンポジウムは、2024年6月20日(木)、21日(金)に土木学会・オンライン併用(予定)で開催されます。

応募締切り（2024年1月12日(金) 17:00）

要旨投稿はこちら

募集内容1

2024 年度河川技術に関するシンポジウム
および「河川技術論文集 第 30 巻」論文募集

河川部会では 2024 年度も標記シンポジウムを下記のとおり開催予定です．シンポジウムでの議論，あるいは技術，研究の継承，発展のため「河川技術論文集 第 30 巻」への論文を募集します．理念に示すように，河川部会は河川技術を「河川（水・土砂・物質循環系を含む）と人間および生物との関係をより良いものに変えていくために河川を賢く制御する実践的技術の総体」ととらえ，河川技術の分野において産学官を問わず広い裾野から研究開発や技術検討が精力的に行われ，それが河川や流域の現場に広がり，現実を変え，そのことが国民，流域住民から肯定的に認知され，河川技術の発展とその現場への適用を促進するという好循環の形成に貢献することを目指しています．

河川技術は水理学などの土木工学における基礎学問に立脚しつつも，安全で快適なまちづくりにおいて重要な河川を対象とした必要な技術であるため，その背景にある基礎，応用研究が社会実装と密接に繋がっており，それゆえその発展には産官学の連携が強く求められます．このために，河川技術論文集における技術，研究の蓄積，河川技術に関するシンポジウムにおける考え方の共有，意見交換，技術，研究などの発展に関わる議論，は河川部会における主活動となっています．ここでは，学術的疑問の解決のために実施される基礎研究と，河川の現場，あるいは社会から解決が求められる現実の課題が河川技術を介して有機的なつながりを形成し，産官学の参加者はそれぞれの役割を認識し，よりよい川づくり，流域づくり，まちづくりのための河川技術の発展に貢献するよう自身を高めていく場となっています．このため，産官学問わず多くの論文投稿があることも特徴であり，河川部会で大事にしていることのひとつです．

河川技術論文集は今回で第 30 巻となりますが，ここ数年はコロナ禍の影響を受けて開催様式等を変えております．今回は後述いたしますように，対面開催を拡大したハイブリッド化，オンラインの特別サイト活性化のためのアウトスタンディングディスカッション賞創設など，コロナ禍を受けて進化した形を目指しております．皆様からの積極的な論文等の投稿と，ふるってご参加いただきますようご案内申し上げます．

シンポジウム内容
・開催期日 2024 年6 月20 日（木）・21 日（金）
・開催方法（会場又はオンライン参加でのハイブリッド形式）
会場：土木学会 (〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目 外濠公園内)

① オーガナイズドセッション：数人の発表者および参加者による議論（会場参加者とZOOM 上でのオンライン参加者の併用を予定）
② ポスター発表：ポスターを会場に掲示し発表者と会場参加者による議論
③ 口頭発表：ハイブリッドでの口頭発表と質疑応答（ZOOM 上での発表．会場でのオンライン参加用会議室も準備予定）
※ ポスター発表，口頭発表は，専用サイトでの事前ディスカッションを踏まえて実施します．

募集内容2

<特定テーマA 気候変動> 本特定課題では，気候変動に対して求められる河川技術の発展に資する積極的な研究を募集します．具体的には，将来の気候変化によって流域の洪水特性，水資源，水循環，水環境にどのようなことが生じうるのか，治水，利水，環境，維持管理においてどのような対応をする必要があるのか，これらを踏まえて，高度な気象・水文観測・解析技術に基づく洪水予測システムの開発と活用，ダム運用の高度化や流域治水の推進など，河川計画，河川維持管理に求められることは何か，あるいはこれら以外の気候変動に関連する河川技術研究に関する論文等を広く募集します．

<特定テーマB 数値解析技術による河道計画，河道設計手法の改善> 数値解析技術による河道計画，河道設計手法の改善に関する研究を募集します．具体には，河道計画，あるいは河道掘削形状や河道制御施設の配置等といった河道設計において，数値解析技術を用いて現状の手法の改善を提案する論文，並びに河道計画や河道設計の改善に向けた数値解析に関する技術開発や活用のあり方を提案する論文を広く募集します．

一般課題（査読分野と共通）
河川環境・河川生態
洪水流の水理
土砂水理・河床変動
ダムの計画と管理
河川堤防・護岸
河川構造物・局所流・局所洗掘
河道の維持管理・樹林化
大量の土砂・流木を伴う洪水・氾濫
河川計画，超過洪水，洪水リスク
降雨流出・洪水・氾濫予測，避難
流域治水，上下流問題，流域対策，水循環，地下水
観測技術・計測技術・リモートセンシング
河川の捉え方，治水のあり方
河川のDX，ビッグデータ分析，AI

テーマ説明詳細はHPを参照ください
https://committees.jsce.or.jp/hydraulic01/system/files/%E4%B8%80%E8%88%AC%E8%AA%B2%E9%A1%8C%E3%81%AE%E5%8B%9F%E9%9B%86%E3%83%86%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%81%AE%E8%AA%AC%E6%98%8E.pdf

募集内容3

2024 年1 月12 日（金）17:00 要旨投稿締め切り

https://committees.jsce.or.jp/hydraulic01/entry_sympo2020

2024年2 月上旬 第 1 段階審査結果通知

2024 年4 月3 日（水）17 時 本論文締め切り

・参加及び発表・ディスカッション形式
論文等発表者は，対面・オンラインの希望する形式で参加．発表者は，特設サイト上のディスカッションとポスター発表（対面）または口頭発表（ハイブリッド）．要旨応募時に，希望する参加形式(対面/オンライン)と発表形式（ポスター発表(対面)+口頭発表(対面)/ポスター発表(対面)/口頭発表(対面)/口頭発表(オンライン)）についての選択（人数制限有）特定テーマに投稿された論文等は，オーガナイズドセッションにて発表・ディスカッションしていただくこともあり

「河川技術論文賞」＋「優秀発表者賞」
＋「アウトスタンディングディスカッション賞」
河川シンポジウムの特設サイトはコロナ禍で生み出された試みの一つです．投稿論文やOS，OPSに関するしっかりとした議論の実施とその記録は，河川部会として今後とも大事にしていきたい取り組みとなりました．そこで，そのディスカッションをさらに活性化させるために本賞を創設いたします．特に，本賞の授与は発表者だけでなくすべての参加者を対象といたしますので，参加者の皆様からの積極的なご議論を歓迎します．

環境水理部会活動報告・活動予定

部会長　赤松良久(山口大学)
副部会長　新谷哲也(東京都立大学)
幹事　吉川 泰弘(北見工業大学)
幹事　東　博紀(国立環境研究所)

2023年度環境水理部会研究集会
日時:2023年8月31日から9月1日
場所:宮城県気仙沼市

WG活動

沿岸海洋環境WG(主査:齋田倫範(鹿児島大学))
- 今後のWGの進め方についてWG内で議論するとともに，沿岸海洋環境研究の現在～将来について学際的視点からオブザーバーを交えて重要課題を議論する場を設ける

火山麓河川水系WG(主査:田代喬(名古屋大学))
- 4/10に，情報・意見交換を趣旨とする第1回オンライン談話会を実施（6名参加）.
- 7/22-24に白山・手取川水系巡検を，8/30に栗駒山・磐井川～北上盆地巡検を実施.

閉鎖性水域WG(主査:中山恵介(神戸大学))
- 現地見学会・発表会を実施（7/13-16，沖縄久米島，5名参加）
- 2024年5月に沖縄での研究会の実施予定

温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG(主査:梅田信(日本大学))
- 年度内にWGの開催予定.

環境水理部会研究集会2023 in 気仙沼

8月３１日（木）研究集会＋懇親会
9月　１日（金）現地見学会

- 研究集会参加者　31名
- 懇親会　29名
- 現地見学会　23名

東京都立大学の横山勝英先生には，本集会の開催に際しまして，多大な尽力を頂きました．

大変，ありがとうございました．

研究集会　09:30 ～ 17:50
発表件数　16件
講演件数　2件

セッション１	発表者		所属
09:35 - 10:50	岩崎	翼	東京都立大学
	赤塚	慧	東京都立大学大学院
	大槻	順朗	山梨大学大学院
	蔵島	怜	東京工業大学

セッション２	発表者		所属
11:00 - 11:55	岡井	陽平	土木研究所
	手塚	透吾	国立研究開発法人土木研究所
	溝口	裕太	土木研究所

講演会	発表者		所属
13:00 - 13:45	小野寺	憲一	気仙沼市役所震災復興・企画部長
13:45 - 14:30	三浦	友幸	(一社)プロジェクトリアス代表理事／気仙沼市議会議員

セッション３	発表者		所属
14:40 - 16:15	福丸	大智	山口大学大学院
	赤堀	良介	愛知工業大学
	大中	臨	山口大学大学院
	笠原	豪	東京都立大学
	横山	勝英	東京都立大学

セッション４	発表者		所属
16:25 - 17:45	田代	喬	東海国立大学機構名古屋大学
	河野	誉仁	土木研究所
	大平	好亮	独立行政法人 水資源機構
	古里	栄一	(独)水資源機構

小野寺憲一様

三浦友幸様

現地見学会

09:20　舞根地区自然再生事業

11:00　明戸海岸堤防

11:30　只越河川堤防

12:10　大谷海岸道の駅（昼食）

13:20　津谷川河川堤防

舞根地区自然再生事業　塩性湿地

舞根地区自然再生事業　河川護岸開削部

舞根森里海研究所にて

舞根森里海研究所前の広場にて

現地見学会

09:20　舞根地区自然再生事業

11:00　明戸海岸堤防

11:30　只越河川堤防

12:10　大谷海岸道の駅（昼食）

13:20　津谷川河川堤防

明戸海岸堤防

明戸海岸堤防

只越河川堤防にて　右岸より上流を望む

只越河川堤防にて　橋より上流を望む

津谷川河川堤防　左岸より上流を望む

閉鎖性水域WG報告

構成

主査　中山恵介（神戸大学）
委員　14名

R4年度の主な活動

7月13日～16日：

- 久米島にて閉鎖性水域に関する研究紹介を行った．参加者（敬称略）：新谷，古里，井上，吉川，中山
- 現地の湖沼・ため池の視察およびCO_2吸収に関する計測を実施した．

R5年度の活動計画

① 2024年5月：沖縄にて研究集会を開催する．

② 湖沼・貯水池・ため池・内湾における成層流動場の理解の促進，および密度流解析を前提としたCO_2やメタンを含む水環境研究を発展させるために必要な活動を行う．

2023年12月時点

火山麓水系WG・近況報告

2021年6月発足

メンバー：厳島（東工大）、梅田（日大）、※江端（豊田高専）、新谷（都立大）、〇田代（名大）、※谷口（三重大）、土屋（中大）、※野崎（椙山女大）、※橋本（岐大）、※松本（豊田高専）、※八木（愛工大）、※安井（土浦日大高）

〇：主査、※：非部会員、敬称略、合計12名

- **4月10日 （オンライン）談話会実施（事例報告＋講演、6名参加）**
  - ・事例報告：「2022年度の御嶽山での調査研究報告」／豊田工業高等専門学校　環境都市工学科　講師　江端一徳さん
  - ・講　　演：「山地源頭部の河床形態と地形、地質」／東京工業大学大学院　環境・社会理工学院　助教　厳島怜さん

- **7月22-24日 白山・手取川水系巡検実施（6名参加）**
  - ➢ 手取川各所（ダム、桑島化石壁、綿ヶ滝、獅子吼高原、七ヶ用水、霞堤、水害の碑、お台場の伏流水等）
  - ➢ 白山砂防、白山国立公園（百万貫の岩、別当大崩れ、市ノ瀬ビジターセンター、中飯場、甚之助谷等整備）
  - ➢ 東大北陸サテライト（白山市白峰）、白山砂防科学館、手取川総合開発記念館、白山ろく民俗資料館他

2023年5月にユネスコ世界ジオパークに認定された、白山手取川の各所を巡検し、1934（昭和9）年7月の手取川水害における、白山麓の崩壊・地すべり、土石流や下流扇状地等において氾濫が生じた箇所などを見学

協力：東京大学地域未来社会連携研究機構北陸サテライト（坂本貴啓特任助教）、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所白峰砂防出張所、環境省中部地方環境事務所白山自然保護官事務所

- **8月30日 栗駒山・磐井川～北上盆地巡検（2名参加）**
  - ➢ 磐井川沿川地域各所（伊豆沼、厳美渓、須川高原、一関遊水地
  - ➢ 栗駒山麓ジオパークビジターセンター　他

酸性河川として著名な栗駒山麓の磐井川上流の須川から、北上川合流後の一関遊水地を巡検

今後も他地域の現地見学会などを通じて，WG内で情報・意見交換を進めていく予定

グローカル気候変動適応研究推進小委員会

小委員長　小林健一郎

(1) 地球環境委員会と水工学委員会（グローカル）との土木学会全国大会での共通セッションを立ち上げた.
2023年試行開催，2024年本格開催

気候変動・地球環境問題ー水工学委員会・地球環境委員会共催セッション
Climate change and global environmental issues - Joint Session by the Committee on Hydroscience and Hydraulic Engineering and the Committee on Global Environment

近年の大雨や台風による災害の増加から推察される通り、気候変動の影響が顕在化しており、防災対策の強化の必要性は疑う余地がありません。 同様に、水資源の確保と水環境の保全の観点からも、気候変動への適応も緊急の課題です。 さらに、その他の地球環境問題にも対応していかなければなりません。 そこで本セッションでは、日本の土木分野全体に関わる様々な観点から、適応策、緩和策、地球環境問題に関する幅広い研究と実践について議論します。 また、分野横断的な研究を推進し、土木学会での連携を活性化します。 この共通セッションは、水工学委員会と地球環境委員会が共催しています。
The impacts of climate change have become apparent, as inferred from the increase in disasters caused by heavy rains and typhoons in recent years, and the necessity of enhancing disaster prevention measures is unquestionable. Likewise, adapting to climate change is an urgent task from the viewpoint of securing water resources and protecting the environment. Moreover, we must respond to other global environmental issues. Therefore, in this session, we will discuss a wide range of research and practices on climate change adaptation and mitigation measures and global environmental issues from various perspectives related to the entire civil engineering field in Japan. In addition, we will promote cross-disciplinary research and revitalize collaboration among the Japan Society of Civil Engineers. The Committee on Hydroscience and Hydraulic Engineering and the Committee on Global Environment co-host this joint session.

グローカル気候変動適応研究推進小委員会

小委員長　小林健一郎

(2) 2023年12月12日開催　アゲールシンポジウム（水工学委員会執行部＋グローカル小委員会企画）

テーマ：「**水工学の次世代国際展開に向けて**」司会：グローカル気候変動適応研究推進小委員会

「世界の多様性とつながりに魅せられて」
小池　俊雄　先生（土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター センター長／東京大学 名誉教授）

「海外からの求められる技術」
石渡　幹夫　先生（国際協力機構 国際協力専門員／東京大学大学院 客員教授）

(3) その他，企画を検討中

開催状況
2023年11月20日：有志のみ＠オンライン開催
2023年12月11日：小委員会開催＠水工学委員会

河道管理研究小委員会報告

委員長　戸田祐嗣（名古屋大）、幹事長　溝口敦子　、委員 20名　顧問　1名

R5年度の活動中間報告

2023.6.10　小委員会開催

新体制の確認，活動報告，活動方針

2023.10.02　小委員会コアメンバー会議

TF,WGの活動状況報告，今後の活動方針

◆「堤防の侵食に対する安全性評価のための技術検討フレーム」成果公表作業，別河川での検討開始

流れ・河床変動解析と堤防侵食フォルト・ツリーを結合させた技術検討フレームをR01年の千曲川での被災事例（上田鉄道橋付近）を対象に構築。査読論文投稿中。

2か月に一度打ち合わせをしながら，新たに神通川での検討を実施中。

◆堤防侵食WG　研究実施に向けた打ち合わせと現地視察・意見交換

共同研究に向けた意見交換　2023.07.13（オンライン）　方向性と実施方針について確認

現地視察・打ち合わせ：2023.09.06　安倍川の現地視察と打ち合わせ

◆河積管理WG

流下能力研究実施に向けた打ち合わせ実施　2023.09.22（オンライン）

河川財団の流下能力維持の手引きと連動し，各地整からピックアップいただいた河川でのフィージビリティスタディに向けて打ち合わせ。

今後の予定

TF,2つのWGをそれぞれ具体的な検討に入り活動予定。状況に応じて報告会を実施。

水理・水文統計解析研究小委員会

第一回委員会

2023年5月10日　オンライン

1. 今後の委員会の展開に向けて　小林先生（神戸大学）
   設立経緯の説明
2. 極値統計を実務に応用する際の課題　北野先生（名工大）
   ～この30年ほどの水文統計をとりまく状況の変化を数理的側面から概観～
3. 河川整備基本方針の変更について　石川河川計画調整室長（国交省）
   水文統計の役割等の説明，d4pdfの適用法

32名出席

・3つのTaskに分けた活動の実施

Task1: 水理・水文量の極値確率評価法の再構築部会
Task2: 気候変動の検討に必要な新しい手法レビュー部会
Task3: 実務としても学としても裾野を広げる仕組みづくり部会

・第一回委員会時にアンケートを実施
今後の期待や進め方の意見収集
年限を決めた行動計画や今後のスケジュールの具体化の意見があった.

これ以降の活動

水理・水文統計解析研究小委員会　活動記録

水工学オンライン連続講演会

6月26日17:00～18:30
発表者：小林健一郎（神戸大），北野利一（名古屋工大），
石川博基（国交省河川計画課）

Task1　北野利一（名古屋工大）

12月26日14:00～　統計数理研究所
　発表者：西郷達彦（山梨大），北野利一

Task2　田中智大（京大工学研究科）

10月23日15:00～17:30　土木学会会議室A
　参加者　26名（オンラインを含む），　発表者：小林健一郎，平賀優介，田中智大
　今後，若手でレビュー論文の執筆

Task3　小林健一郎（神戸大学）

6月29日9:00～10:00　土木学会会議室A
　参加者　10名（オンラインを含む），　発表者：北野利一
　今後，民間と河川計画課との活動

水理・水文統計解析研究小委員会

委員

委員：14名
風間聡（委員長、東北大）
小林健一郎（幹事長、神戸大）
近森秀高（岡山大）
北野利一（名工大）
矢野真一郎（九大）
渡部哲史（九大、比較社会）
萬和明（京都大学）
田中耕司（大阪工大）
仲江川敏之（気象研）
谷口博（神戸高専）
木村延明（農研機構）
山田朋人（北大）
石川博基（水管理・国土保全局　河川計画課　河川計画調整室長）
岡部真人（国土技術センター）

幹事：16名
田中智大（京都大学）
山田真史（京大防災研）
小柴孝太（京大防災研）
川上拓（日本工営）
丸谷靖幸（九州大学）
与賀田隆史（日本工営）
大熊広樹（東洋建設）
尾ノ井龍仁（パシコン）
平子遼（舞鶴高専）
新井涼允（電力中央研究所）
平賀優介（東北大学）
丸尾啓太（農研機構就職予定）
畔柳陽介（パシコン）
辻倉 裕喜（建設技研）
竹本麻理子（応用地質）
福谷陽（関東学院大学）
小山直紀（中央大学）
服部啓太（土木研究所）

学生幹事
井野川七虹（神戸大学）

オブザーバ
寶　馨（防災科研）
田中茂信（京大名誉教授）
葛葉泰久（三重大）
立川康人（京都大学）

水工学オンライン小委員会報告

- メンバー
  武田(中部大)，重枝(九工大)，柏田(東京理科大)，吉川(長崎大)，小山直紀(中央大)，田井(福岡工大)，竹村(中央大)，東(国立環境研究所)，乾隆帝(福岡工大)，鵜崎賢一(群馬大)，後藤岳久(中央大)，内藤健介(土木研究所)，原田守啓(岐阜大)，山崎大(東大)
- オブサーバー
  泉典洋 水工学委員会委員長，佐山敬洋 同幹事長，谷口健司 前委員長
- 担当
  水工学オンライン連続講演会，他

水工学オンライン連続講演会

回	開催日時	講師	演習題目・内容
21	2023年6月26日(月)17時～	風間聡先生(東北大学)、小林健一郎先生(神戸大学)、北野利一先生(名古屋工業大学)、石川博基先生(国土交通省)	題目 「新たに設立した「水理・水文統計解析研究小委員会」が目指すもの」
22	2023年8月10日(木)17時～	福岡捷二先生(中央大学)、齋藤正徳先生(国土交通省)	題目 「河川技術論文賞受賞者講演～これからの治水について考える～」
23	2023年10月27日(金)18時～	道奥康治先生 (法政大学)	題目 「環境水理学私史と水工学への期待」

今後の予定

第24回　2024年2月　河川観測高度化
第25回　2024年4月　河道管理

報告：第23回では問題なく実施できましたので、今後、Zoomウェビナーを使用します。

「第１１回流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ」

【プログラム】

◆日　　時：　令和６年１月１６日午後（火）PM 14:00～17:20
◆場　　所：　土木学会講堂及び Zoom による WEB オンライン開催
◆主　　催：　土木学会　流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会、
河川懇談会、水工学委員会、土木計画学研究委員会
国土交通省

土木学会継続教育（CPD）プログラム：認定番号 JSCE23-1558，単位数 2.9 単位

・司会進行：小委員会幹事　　熊本大学 准教授　田中　尚人

1．開　会　（14:00～）　10 分

開会挨拶　　京都大学　教授　　市川　温

2．基調講演（14:10～）　30 分

「流域管理と地域計画の連携に向けて―流域水収支図と流域土砂収支図の作成と活用」
中央大学研究開発機構　福岡ユニット　　福岡　捷二

3．第１部　土地利用・住まい方の工夫と連携した流域治水の本格的実践～江の川下流の事例
（14:40～）　　９０分

１）江の川下流の治水対策の歴史と流域治水の取り組みについて　　２０分
国土交通省中国地方整備局　江の川流域治水推進室長　兼重　和明

２）川本町のまちづくりと治水対策　　２０分
島根県川本町長（江の川沿川自治体）　野坂　一弥

総合討議①　　５０分
・コーディネーター：小委員会幹事　　熊本大学 准教授　田中　尚人

～　　**休憩 10 分**　　～

4．第２部　これからの流域治水の取組に向けて　～河川砂防技術研究開発公募制度～
（16:20～）　　50 分

１）河川砂防技術開発公募制度の概要　　５分
国土交通省水管理・国土保全局河川計画課 河川情報企画室 室長　藤田 士郎

２）2019 年千曲川洪水氾濫が企業にもたらした直接的・間接的経済被害の推計および
過去の水害との比較 分析（河川砂防技術研究開発公募研究）　　１５分
名古屋工業大学　中居　楓子

３）中小河川の水害リスク低減策と地域水防災意識向上に関する研究
（河川砂防技術研究開発公募研究）　　１５分
高知大学　渋尾　欣弘

総合討議②　　１５分
司会：　小委員会幹事　京都大学　教授　　市川　温

5．まとめ、閉会（17:10～）10 分　　熊本大学 准教授　田中　尚人

水害対策小委員会

2023年6月以降の活動

2023年6月：　第一回水害・土砂災害等による
建築物等の被災調査マニュアル検討WG

2023年7月：　**2023年度　第一回水害対策小委員会開催**

2023年8月：　第二回水害・土砂災害等による
建築物等の被災調査マニュアル検討WG

2023年10月：　第三回水害・土砂災害等による
建築物等の被災調査マニュアル検討WG

今後の予定

2024年1月：　第四回水害・土砂災害等による
建築物等の被災調査マニュアル検討WG

2024年1月：　2023年度　第二回水害対策小委員会開催（オンライン）

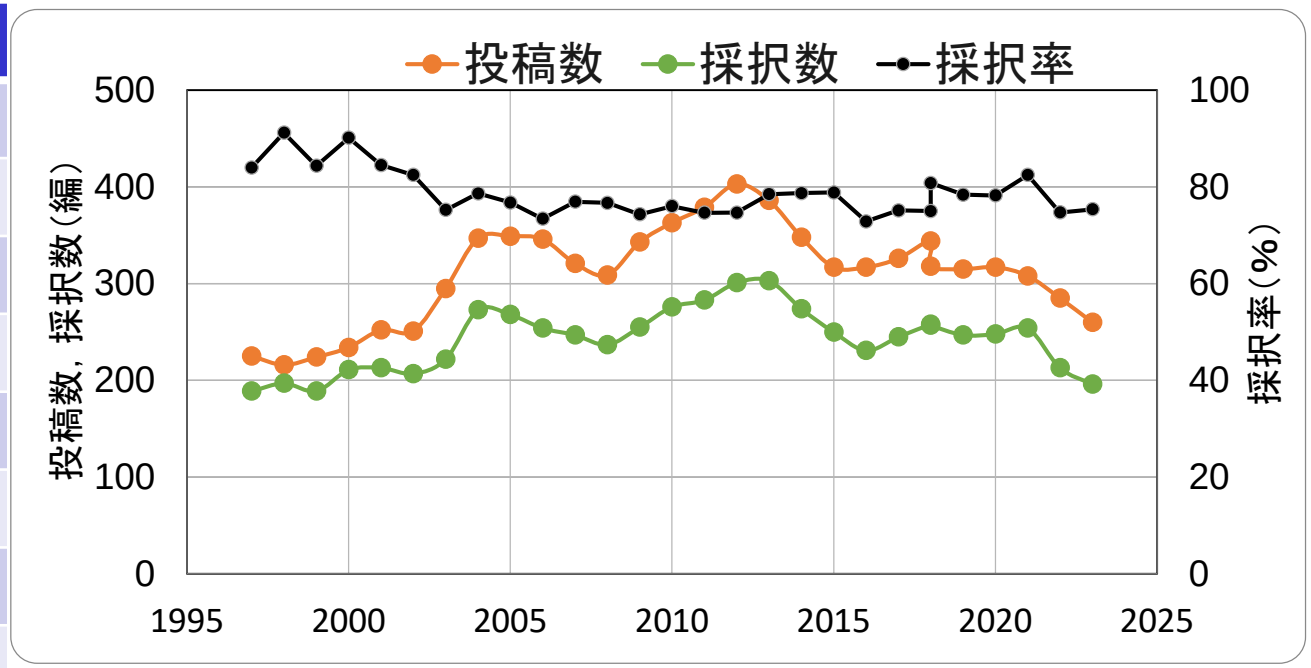
2024年4月：　**河川災害に関するシンポジウム（対面・オンライン）**

- **国内・海外の水害調査団結成のサポート**
- **建築学会とのコラボレーション**
- 水害対策小委員会Facebookでの情報発信
- 水害対策小委員会HPの充実
- 消防連携WG
- 水害対策小委員会災害調査データベースWG

1) 2023年度の投稿数・採択数

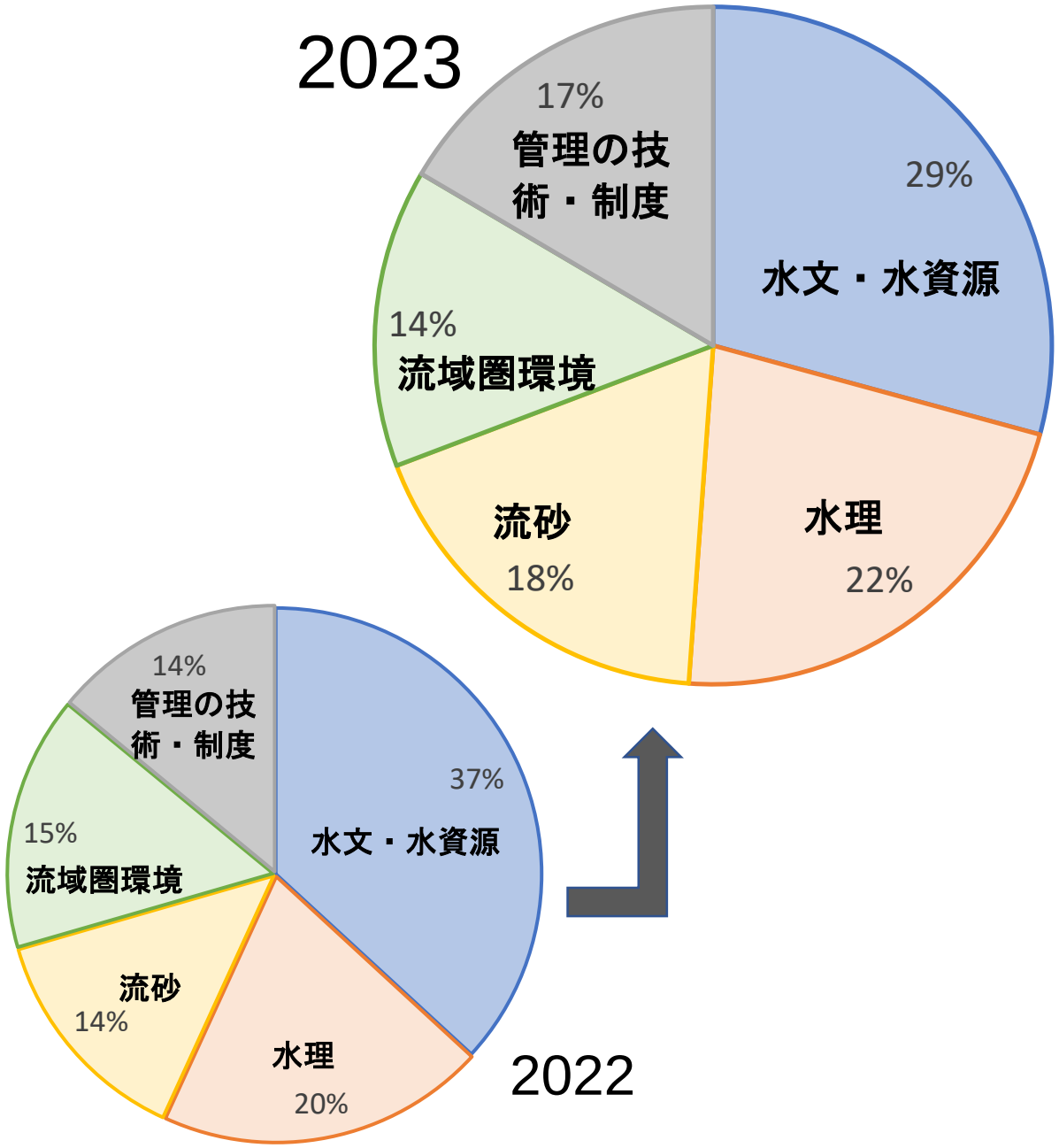
投稿数：260編　採択数：196 編

回	年	投稿数	採択数	採択率
57	2013	386	303	78.5
58	2014	348	274	78.7
59	2015	317	250	78.9
60	2016	317	231	72.9
61	2017	326	245	75.2
62	2018	344	258	75.0
63	2018	318	257	80.8
64	2019	315	247	78.4
65	2020	317	248	78.2
66	2021	308	254	82.5
67	2022	285	213	74.7
68	**2023**	**260**	**196**	**75.4**



※　加えて「通常号」からの講演：3編（一般）

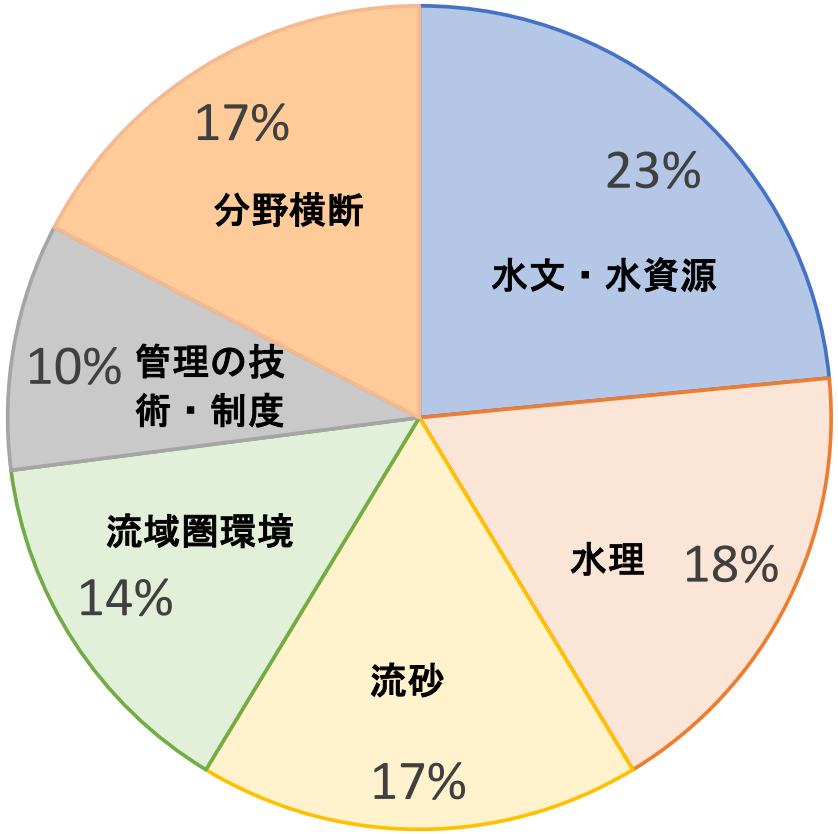
2) 査読部門別　投稿状況

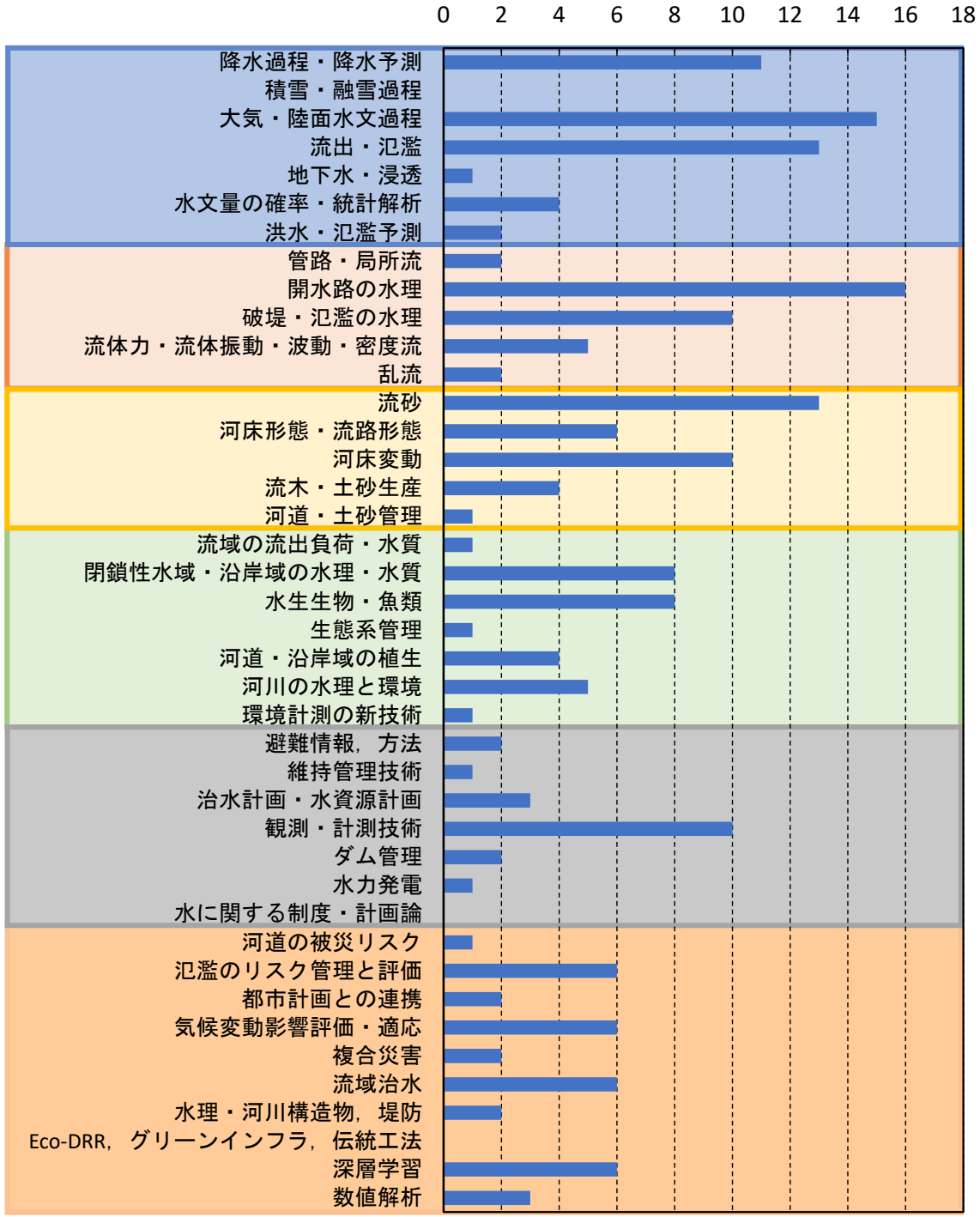


分野	投稿数	査読分野キーワード	投稿数
水文・水資源	76	水文 ・水資源	17
		降水過程・降水予測	11
		積雪・融雪過程	1
		大気・陸面水文過程	15
		流出・氾濫	17
		地下水・浸透	3
		水文量の確率・統計解析	6
		その他	6
水理	57	水理	15
		管路・局所流	2
		開水路の水理	16
		破堤・氾濫の水理	16
		流体力・流体振動・波動・密度流	7
		その他	1
流砂	47	流砂	22
		河床形態・流路形態	7
		河床変動	10
		流木・土砂生産	7
		その他	1
流域圏環境	37	流域圏環境	4
		流域の流出負荷・水質	2
		閉鎖性水域・沿岸域の水理・水質	11
		水生生物・魚類	12
		生態系管理	1
		河道・沿岸域の植生	5
		その他	2
管理の技術・制度	43	管理の技術・制度	2
		避難情報，方法	3
		維持管理技術	3
		治水計画・水資源計画	12
		観測・計測技術	13
		ダム管理	7
		その他	3
	260	計	260

分野	英文	投稿数	採択	採択率	査読分野キーワード	英文	投稿数		採択		採択率		採択率				編集委員数	一人当たり担当数
							2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	割合	2022	割合		
水文・水資源	Hydrology / Water resources	76	62	82%	水文 ・水資源	Hydrology / Water resources	17	–	13	–	–	–	62	32%	85	40%	21	7.2
					降水過程・降水予測	Precipitation process / Forecasting	11	19	10	15	0.91	0.79						
					積雪・融雪過程	Snow accumulation / Melting process	1	2	0	2	0.00	1.00						
					大気・陸面水文過程	Land-atmosphere processes	15	16	12	14	0.80	0.88						
					流出・氾濫	Runoff / Inundation	17	32	16	29	0.94	0.91						
					地下水・浸透	Groundwater / Infiltration	3	9	1	5	0.33	0.56						
					水文量の確率・統計解析	Probabilistic and statistical analysis of hydrological variables	6	17	4	11	0.67	0.65						
					その他	Others	6	10	6	9	1.00	0.90						
水理	Hydraulics	57	41	72%	水理	Hydraulics	15	–	9	–	-	-	41	21%	39	18%	13	8.8
					管路・局所流	Pipe flow / Local flow	2	6	2	3	1.00	0.50						
					開水路の水理	Open channel hydraulics	16	16	10	9	0.63	0.56						
					破堤・氾濫の水理	Hydraulics ofinundation and dyke breach	16	22	14	17	0.88	0.77						
					流体力・流体振動・波動・密度流	Fluid force / Flow-induced vibration / Wave motion / Density flow	7	8	6	8	0.86	1.00						
					その他	Others	1	5	0	2	0.00	0.40						
流砂	Sediment transport	47	34	72%	流砂	Sediment transport	22	11	16	8	0.73	0.73	34	17%	27	13%	11	8.5
					河床形態・流路形態	Bed and channel morphology	7	10	4	6	0.57	0.60						
					河床変動	Bed deformation	10	12	9	11	0.90	0.92						
					流木・土砂生産	Driftwood / Sediment yield	7	4	4	2	0.57	0.50						
					その他	Others	1	2	1	0	1.00	0.00						
流域圏環境	Water environment in river basins and	37	28	76%	流域圏環境	Water environment in river basins and estuaries	4	–	1	–	-	-	28	14%	28	13%	11	6.7
					流域の流出負荷・水質	Effluent loads and water quality in river basins	2	6	3	5	1.50	0.83						
					閉鎖性水域・沿岸域の水理・水質	Hydraulics and water quality in lakes, reservoirs, and estuaries	11	15	9	12	0.82	0.80						
					水生生物・魚類	Algae, benthos, fish, and other aquatic creatures	12	6	10	5	0.83	0.83						
					生態系管理	Ecosystem management	1	7	1	3	1.00	0.43						
					河道・沿岸域の植生	Vegetation in rivers and estuaries	5	6	4	2	0.80	0.33						
					その他	Others	2	4	0	1	0.00	0.25						
管理の技術・制度	Technology and system for management	43	31	72%	管理の技術・制度	Technology and system for management	2	–	0	–	-	-	31	16%	34	16%	11	7.8
					避難情報，方法	Information and method for evacuation	3	11	3	10	1.00	0.91						
					維持管理技術	Maintenance technology	3	8	1	6	0.33	0.75						
					治水計画・水資源計画	Flood control plan /Water resources plan	12	6	9	4	0.75	0.67						
					観測・計測技術	Measurement technology	13	2	11	2	0.85	1.00						
					ダム管理	Dam management	7	8	4	8	0.57	1.00						
					その他	Others	3	5	3	4	1.00	0.80						
		260	196	75.4%	計		260	285	196	213			196	100%	213	100%	67	7.8

3) 論文テーマ別　投稿状況





4) 今年度からの主な変更点

◆投稿原稿フォーマットが，新しい（2022～）土木学会論文集の書式となった.

- 和文は，参考文献の英語併記が必須となった．これに伴い，和文のページ数上限が7ページとなった.

現在の投稿システム（昨年から使用）

◆Editorial Manager を使用

- 一度投稿したら，締切期限内であっても差替えは不可.
- 修正論文の査読段階以降は，論文ごとに審査が進む.

編集委員の皆様，ご協力を大変ありがとうございました.

◆講演会の時点では**「講演資料集」として掲載**される.

- 講演資料集は引用禁止.
- 講演資料集は，和文は”土木学会論文集, Vol.80, No.16”，英文は”Journal of JSCE, Vol.12, No.2”として，2024年2月にJ-STAGEに掲載される予定で，引用の際は，後日発行のJ-STAGE論文の情報を利用すること.
- 講演会参加者のみ，講演資料集の閲覧権を購入できる.

◆講演資料集刊行後に判明した重大な訂正については，水工学委員会・編集小委員会で訂正記事掲載が可と判定された場合，**訂正記事掲載手数料（1編あたり10,000円）を請求**する.

◆著者負担金として，資料集への掲載が決定した論文1編あたり，論文投稿料に加え，**登壇料をお支払い**いただくこととなった.

5) 表彰選考のお願い

◆水工学論文賞

◆水工学論文奨励賞

◆Best International Paper Award

◆アウトスタンディングディスカッション賞

2023/12/22（金）までに，Google Formsより，評価結果をご提出ください．ご協力をよろしくお願いいたします．

選考スケジュール	10月	11月	12月	1月	2月	2～3月	
• 水工学論文賞 • 水工学論文奨励賞 • Best International Paper Award	対象論文選定	審査員選定 →依頼	講演会後1～2週間で審査結果を回収	集計	委員会で決定 →対象者に通知	水工学委員会HPで受賞論文・受賞者の公表	翌年度の水工学講演会にて授賞式

6)論文内容の訂正について 【審議事項】

水工学論文集特集号(水工学)投稿要領(令和5年4月17日一部改正)より
https://committees.jsce.or.jp/hydraulic/node/26

11. **公表された論文**の訂正
刊行後判明した著者の責任による軽微な訂正については，訂正記事の掲載をしないため，　原稿作成にあたっては十分注意すること．なお，内容の理解にかかわる重大な訂正については，水工学委員会を経て最終的には小委員会で判断するが，訂正記事を掲載する方向で対応する（有料）

13.　著者負担金および訂正記事掲載手数料
著者負担金として，資料集への掲載が決定した論文について，著者に対し 1 編あたり論文 投稿料 35,000 円（税込み）に加え，別途，登壇料を徴収する．なお，通常号論文を講演会で発表する場合は，登壇料相当を請求する．また，**訂正記事の掲載は，訂正記事掲載手数料**を請求する．登壇料，訂正記事掲載手数料の金額は，開催年の講演会Webサイトにて明示する．

11. 公表された論文の訂正

刊行後判明した著者の責任による軽微な訂正については，訂正記事の掲載をしないため，　原稿作成にあたっては十分注意すること．なお，内容の理解にかかわる重大な訂正については，水工学委員会を経て最終的には小委員会で判断するが，訂正記事を掲載する方向で対応する（有料）

解釈	A（執行部の見解）	B
公表された論文	資料集として参加者に公表されている	J-STAGEで公開されている
刊行後	資料集として刊行	J-STAGEで刊行

2023年大会サイト:【水工学講演会】論文募集
https://confit.atlas.jp/guide/event/jscehyd2023/static/submission

最注意事項3）「資料集」として刊行後に判明した著者の責任による軽微な訂正については，訂正記事の掲載をしないため，原稿作成にあたっては十分注意してください．なお，内容の理解にかかわる重大な訂正については，水工学委員会を経て，最終的には土木学会論文集特集号（水工学）編集小委員会で訂正記事掲載の可否を判断します．訂正記事を掲載する場合，訂正記事掲載手数料（1編あたり10,000円）を請求します．

資料集として刊行後に判明した論文内容訂正の対応

1. 著者に修正記事のまとめ資料の作成を依頼
2. 1.の資料を基に，水工学委員会→編集小委員会で審議（基本的に認める方針）
3. J-STAGE掲載前の場合：J-STAGEには修正された論文を掲載する（訂正記事の掲載なし）
   J-STAGE掲載後の場合：J-STAGEに訂正記事を追加掲載する

	J-STAGE掲載前	J-STAGE掲載後
資料集	修正なし	
手数料	なし	請求する
修正記事まとめ資料の扱い	水工学委員会・小委員会での審議資料としてのみ使用	委員会で審議したのち，J-STAGEに訂正記事として掲載

【内規の改正】11. 公表された論文の訂正

現行	改正案
刊行後判明した著者の責任による軽微な訂正については，訂正記事の掲載をしないため，　原稿作成にあたっては十分注意すること． なお，内容の理解にかかわる重大な訂正については，水工学委員会を経て最終的には小委員会で判断するが，訂正記事を掲載する方向で対応する（有料）	**講演資料集として刊行後**判明した著者の責任による訂正については，水工学委員会を経て最終的には小委員会で判断する．ただし，**J-STAGE掲載後の訂正については，訂正記事を掲載し，手数料を請求する．**

第68回土木学会水工学講演会　講演資料集

＜土木学会論文集特集号（水工学），Vol.80，No.16＞

講演資料集刊行後に申し出のあった著者責任による修正は3件ありました.

受付番号	修正希望	対応
JSCE-JHE-D-23-00226	共著者の所属先の変更（論文投稿開始時と論文受理時で変更があった）	軽微な変更であり，訂正はしない.
JSCE-JHE-D-23-00246	筆頭著者の会員情報変更（10月に会員になった）	「論文受理の段階の会員情報で掲載するので，変更は不要・不可である」と回答した.
JSCE-JHE-D-23-00103	解析の誤りによる図表の訂正	水工学委員会を経て最終的には小委員会で判断する.

2024年水工学講演会（富山）

■ 開催日時（案）：2024年12月2日（月）～4日（水）

■ 会場：富山県民会館（JR富山駅より徒歩15分）

■ 部屋の配置

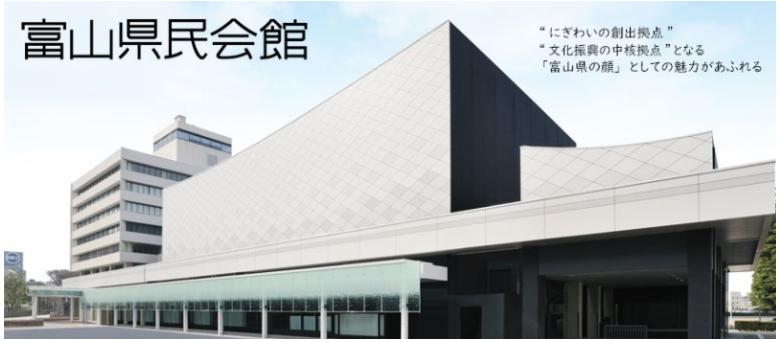
・講演会など：ホール（1,105名）
・第1会場：304（144名）
・第2会場：302（81名）
・第3会場：401（153名）
・第4会場：611（90名）
・第5会場：701（81名）
・受付・企業展示：301 (60名)

■ 予算規模（会場・備品使用料）

145万円～170万円（ホールを第1会場でフル利用）

■ 懇親会

県民会館8階 or 近隣施設
（料金が高くなりそう・・・　交渉してみます）



写真・地図：富山県民会館HPより

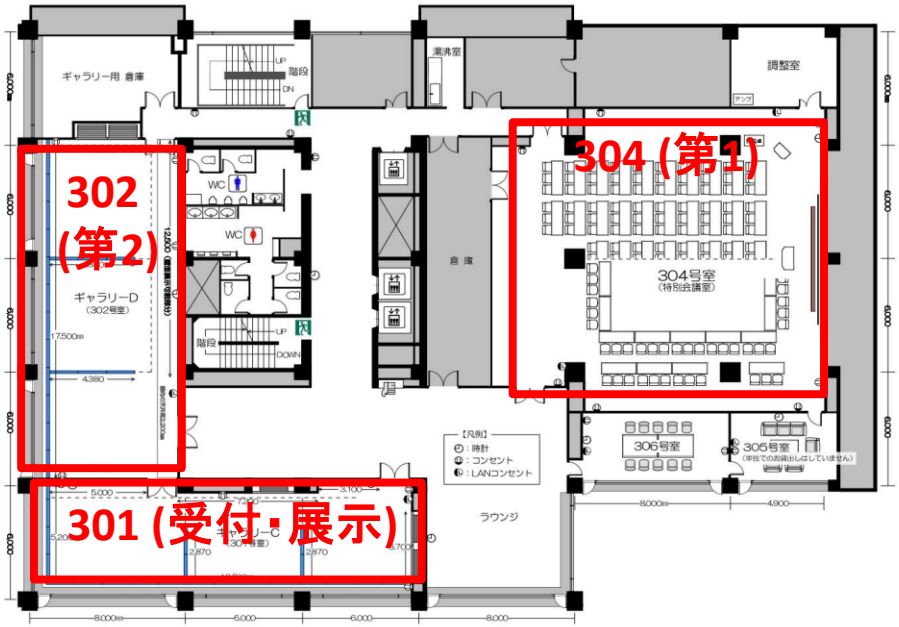
■ 部屋の配置

・講演会など：ホール（1,105名）
・第1会場：304（144名）
・第2会場：302（81名）
・第3会場：401（153名）
・第4会場：611（90名）
・第5会場：701（81名）
・受付・企業展示：301 (60名)

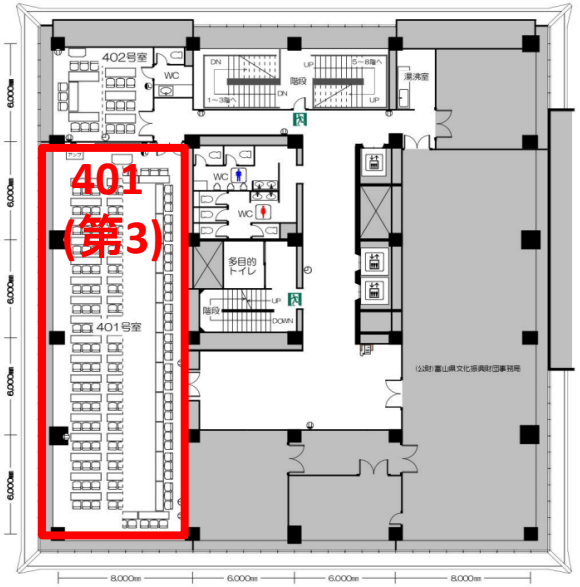
ホール（2階）

写真：
富山県民会館HPより

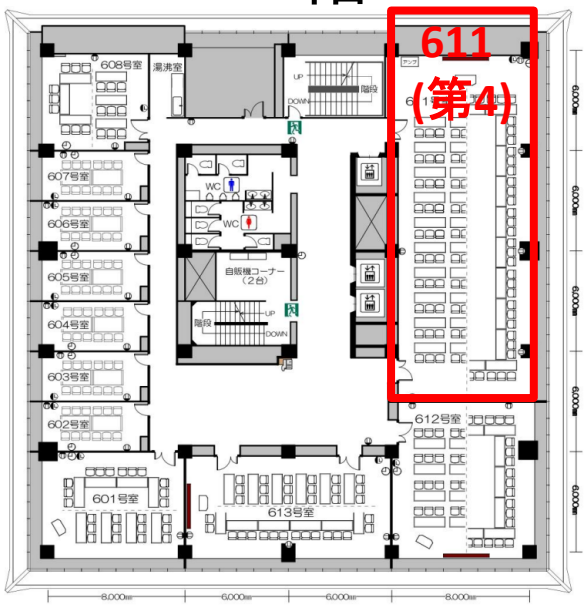
3階


302
(第2)
304 (第1)
301 (受付・展示)
ギャラリー用 倉庫
湯沸室
調整室
倉庫
304号室
(特別会議室)
306号室
305号室
ラウンジ
ギャラリーD
(302号室)
【凡例】
：時計
：コンセント
：LANコンセント

4階


401
(第3)
402号室
401号室
湯沸室
多目的
トイレ

6階


611
(第4)
608号室
湯沸室
607号室
606号室
605号室
604号室
603号室
602号室
601号室
613号室
612号室
自販機コーナー
(2台)

7階

701
(第5)
702号室
703号室
704号室
705号室
706号室
707号室
多目的
トイレ

第59回（2024年度）水工学に関する夏期研修会

担当：山口（京大防災研）

1　開催日時と会場（開催形式）

開催日時：　**2024年8月29日（木）、30日（金）**　（※土木学会全国大会：9月2（月）～、の前週）
会場：　**大阪公立大学杉本キャンパス**
開催形式：　対面のみ
テーマ：　水工学に関するモニタリング技術　※Aコース6名、Bコース6名、共通2名の講師の先生方から90分ずつの講義を予定

2　実施担当者

Aコース（河川・水文）　山口（京大防災研、水工学委員会）
Bコース（海岸・港湾）　遠藤（大阪公立大、海岸工学委員会）
土木学会（事務局）　那須さん
学生アルバイト（運営、会場準備、誘導など）：阪公大で手配

3.　参加募集、登録方法

土木学会のサイトで事前申し込みを受け付ける。
ホームページ：水工学委員会の研修会サイト

4.　受講証、CPD登録

従来通りに研修会終了後に会場で修了証を渡し、CPD申請を受け付ける。
修了証およびCPDは事前に申し込んだコースのものを発行する。

5.　今後の主なスケジュール

1月：　講師の先生を確定
4月：　プログラム作成
6月：　CPDプログラム申請、申し込みページの作成、周知
8月：　本番
10月：　報告書の作成

開催日程及び会場について

【日 程】

開催日は、令和6年 10 月31 日（木）～11 月 1 日（金）〔2 日間〕とする。

水シンポジウム開催日（案）

令和6年 10 月31 日（木） PM シンポジウム （対面形式+アーカイブ配信）

令和6年 11 月 1 日（金） 現地見学会

※台風シーズン明けの 10 月中旬以降とする
※会場予備日 11/7（木）

【会 場】

会場については、長野県長野市若里市民文化ホールとする。

会場（案）

長野市若里市民文化ホール（長野県長野市若里3丁目22－2）
JR 長野駅東口から徒歩 25 分 バス運行有

・ メイン会場 ：ホール（606 席 13 列バリアフリー）

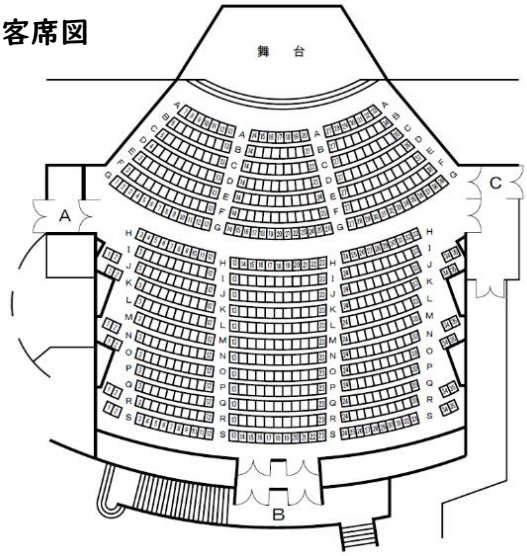
□控え室等 ：楽屋（2部屋）、会議室（4部屋）

※会場の条件は、収容人数や立地条件などを考慮し、次のとおりとする。
（条件）収容人数：令和5年度佐賀県開催の現地参加者約 300 人と同程度を見込み、
倍の 600 名程度を確保できる施設
立地条件：交通の便が良い（駅からのアクセスが容易）

会場アクセス

会場状況

客席図



収容人数　606 席

「第28回水シンポジウム2024 in ながの」実行委員及び事務局員名簿

別表-1　実行委員会（◎実行委員長）

	機関名	役職名	氏名	備考
◎	土木学会水工学委員会	委員長	泉　典洋	北海道大学
	土木学会水工学委員会	幹事長	佐山　敬洋	京都大学
	土木学会水工学委員会	基礎水理部会長	高橋　正行	日本大学
	土木学会水工学委員会 （令和元年台風19号豪雨災害調査団中部・北陸地区） 信州大学地域防災減災センター	地区団長 地域連携部門長	吉谷　純一	信州大学
	北陸地方整備局河川部	河川部長	松浦　直	
	北陸地方整備局千曲川河川事務所	所長	中根　達人	
	長野県建設部	部長	新田　恭士	
	長野市建設部	部長	横田　典久	
	長野SDGs地域防災プロジェクト		一杉　竜哉	

別表-2　事務局（●事務局長）

	機関名	役職名	氏名	備考
	土木学会水工学委員会	幹事長	佐山　敬洋	京都大学
	信州大学工学部	教授	吉谷　純一	信州大学 令和元年台風19号豪雨 災害調査団団長
	信州大学工学部	准教授	豊田　政史	信州大学 令和元年台風19号豪雨 災害調査団幹事
	信州大学地域防災減災センター	特任助教	神田　孝文	
	北陸地方整備局河川計画課	河川計画課長	高橋　恵理	
	北陸地方整備局千曲川河川事務所	副所長	寺田　勝一	
●	長野県建設部河川課	河川課長	川上　学	
	長野市建設部河川課	河川課長	平出　博視	
	長野SDGs地域防災プロジェクト		鈴木　司	

「第 28 回 水シンポジウム 2024 in ながの」
実行委員会規約

（名 称）

第１条　本会は、「第 28 回水シンポジウム 2024 in ながの」実行委員会（以下、「実行委員会」という。）と称する。

（目 的）

第２条　実行委員会は、「第 28 回水シンポジウム 2024 in ながの」（以下、「水シンポジウム」という。）の円滑かつ効果的な開催を図ることを目的とする。

（実行委員会）

第３条　実行委員会は、水シンポジウムの開催及び運営に関する企画事項の決定を行うものとし、実行委員は別表１に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。

２ 実行委員長は、土木学会水工学委員会委員長の職にある者をもって充てる。

３ 実行委員長は、会務を総括し、実行委員会を代表する。

４ 実行委員会には、顧問を置くことができる。

５ 顧問は、実行委員会の活動に際し、指導と助言を行うものとする。

６ 実行委員会の会議は、実行委員長が招集するものとし、会議の議長は実行委員長が務める。ただし、実行委員長に事故等のあるときは、あらかじめ実行委員長が指名する実行委員がその職務を代行する。

７ 実行委員長が必要と認めたときには、実行委員長の指名した者を実行委員に追加・変更することができる。

（事務局）

第４条　実行委員会の事務を処理するため、事務局を置く。

２ 事務局員は別表２に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。

３ 事務局長は、長野県建設部河川課長の職にある者をもって充てる。

４ 事務局長が必要であると認めたときには、事務局長が追加・変更した者を事務局が行う会議に参加させることができる。

５ 事務局は、長野県建設部河川課に置く。

（経 費）

第５条　実行委員会の経費は、分担金その他の収入をもって充てる。

２ 経費の精算は、事業終了後に行う。

（監　事）
第６条　監事は、実行委員会の会計を監査するものとし、北陸地方整備局千曲川河川事務所長の職にある者をもって充てる。

（任　期）
第７条　実行委員、顧問、監事の任期は、この実行委員会が解散するまでとする。

（その他）
第８条　この規約に定めるもののほか、水シンポジウムの開催に関し必要な事項は、実行委員会に諮り、実行委員会の委員長がこれを定める。

附　則　この規約は、令和５年 10 月 27 日から施行する。

【参考】

資料-4

「第28回水シンポジウム2024inながの」
開催準備スケジュール（案）

令和5年10月現在(今後の進捗に合わせて、変更になります)

年　月	会議名		主な議題	備考
	実行委員会	事務局会議		
令和5年				
5月	（事前協議）		土木学会より協力依頼（→長野県）	
5月	（事前協議）		土木学会より協力依頼（→北陸地方整備局千曲川河川事務所）	
8月3日、4日			第27回水シンポジウム2023 in さが 開催	
～8月	（事前調整）		実行委員会メンバーの選出（内諾） ・土木学会、国交省（地整・各事務所）、長野市等	
10月4日		準備会	・実行委員会の規約、構成員の確認 ・開催日程、会場の検討 ・必要経費、予算の確認 ・水シンポジウムの構成検討	
10月下旬	**①**		**・実行委員会の設立 ・開催日程、会場の決定**	書面開催
11月中旬			**河川財団 助成金申請（申請期限：11/15※例年）**	
11月下旬		①	・水シンポジウムの構成、メインテーマ、予算(案)の審議 ・基調講演の企画提案 ・分科会（パネルディスカッション）の企画提案	
11月			協賛団体への協力依頼・調整	
12月中旬	**②**		**・水シンポジウムの構成、メインテーマ、予算(案)の審議 ・基調講演の企画提案 ・分科会（パネルディスカッション）の企画提案**	
2月下旬		②	・分科会（パネルディスカッション）のテーマ、内容の企画検討 ・現地見学会の企画検討 ・広報計画及び会場レイアウトの検討	
令和6年度				
4月下旬			開催運営支援業務委託契約	
4月下旬			**防災研究協会 助成金申請（開催の6ヶ月前まで）**	
4月下旬		③	・分科会（パネルディスカッション）のテーマ、内容の企画検討 ・現地見学会の企画検討 ・広報計画及び会場レイアウトの検討	
5月下旬	**③**		**※開催内容の最終決定 ・分科会（パネルディスカッション）のテーマ、内容 ・現地見学会の内容 ・広報計画及び会場レイアウト**	
9月下旬		④	シンポジウム当日の動員計画等	
10月中旬			当日運営の最終確認	
10月31日(木) AM			会場準備及び各種リハーサル	
10月31日(木) PM			**水シンポジウム（会議）**	
11月1日(金)			**水シンポジウム（現地見学会）**	
1月中旬		⑤	・予算収支の中間報告 ・水シンポジウム報告書（素案）の確認	
2月下旬			河川基金助成事業（完了）報告（報告期限：4月中）	
2月下旬			決算報告、監査	

The 4th JSCE-CCES Joint Symposium of Civil Engineering

Nanjing, China

On the occasion of the centennial of the founding in 2014, JSCE started a new chapter in communication with the Chinese Civil Engineering Society (CCES); both societies agreed upon jointly holding a symposium, which started in 2016. Since then, every two years, CCES and JSCE have held the symposium taking turn hosting it. The first symposium was held at the headquarter in Tokyo, hosted by JSCE, and the second one was done at Tongji University in Shanghai 2018, hosted by CCES. Due to the Covid Pandemic from 2019 to 2022, the third symposium was postponed and hosted online organized by JSCE in 2021. In view of those successful experiences, the fourth Joint Symposium will be back to face-to-face style, hosted by CCES and organized in Hohai University in Nanjing 2024 April.

Time: 2024.4.25~28

4.25: Registration.
4.26: Day one of meeting and presentation
4.27: Day two of meeting and presentation, mini tour of laboratory
4.28: Technic Tour
Location: Nanjing (Near to Hohai University, Hotel:TBD)

We will invite experts in the fields of hydraulic engineering, river engineering, and coastal engineering. Experts in bridges and tunnels will be invited too to reunion and meeting with old friends after long time.

Organizer：International Activities Center, JSCE, in cooperation with Hydraulic Engineering, Coastal Engineering, Hybrid Structure, and Tunnel Engineering Committees

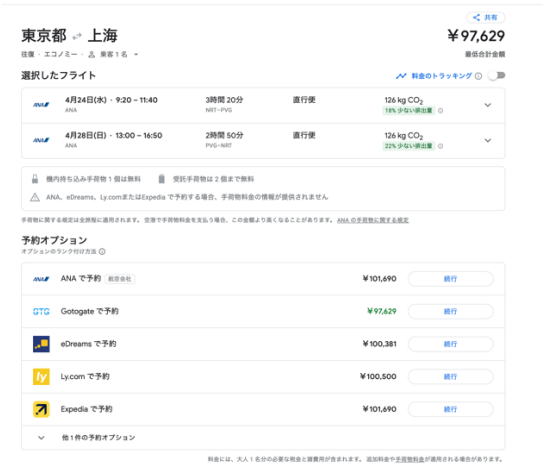
Registration Fee：about 2500 CHY
Registration URL: https://forms.office.com/r/9YF2EXWrCV

Contact **+81-3-3355-3452**
Shibuya & Arai, International Activities Center,
shibuyayukiko@jsce.or.jp, k-arai@jsce.or.jp

第４回日中土木学会シンポジウム　参加登録のご案内

（１）日程について
会期：4 月 24 日（水）～27 日（土）
4 月 24 日（水）受付
4 月 25 日（木）会議 1 日目
4 月 26 日（金）会議 2 日目、実験室見学
4 月 27 日（土）見学会
これからのスケジュール：
１２月：参加登録
２０２４年１月：会場、会議のプログラム、見学先情報などの詳細の案内
２月：航空券の購入とビザの申請を各自で行なっていただきたい。
３月：渡航前の他の準備、スマホアプリのインストール、高速鉄道の予約など
４月：会議への参加

（２）移動方法とビザについて
南京への直行便ですが、本数が少なく、値段も高いようです。現在の相場では概ね往復 22 万となりそうです。



移動について、上海経由で無難かと思いますが、上海南京間の移動は行くときに各自高速鉄道の利用となりますが、その分、切符の予約や乗車について、海外から来るときに、スマホアプリで操作することが便利です。
詳細の解説はインターネットをご参照できれば
https://libair.net/2020/03/31/中国で新幹線高鉄に乗ってみた/

帰りの場合、直接２７日の見学会が終わったら、見学先から上海のホテルまで送るバスを用意していただくようですが。上海に一泊して日曜日の早朝の便を乗るのは無難かと思います。
日本人の中国への渡航は現在ビザ申請が必要となっております、参加者の皆さにおきまして、2月中など早め早めビサ申請をお願いします。

（3）ホテルについて
南京のホテルは先方の押さえていただく予定です、到着したらパスポートで支払いのみとなります。上海の宿泊ホテルの予約も同済大学の先生がしていただく予定で、そのために人数を知りたいです。

（4）見学先
　見学先ですが、現在会議2日目、大学の実験施設の見学を予定しておりまして、見学会の日ではバス移動で、南京～上海間の閘門などを調整しております。
実験室は海河大学の新実験の見学、アジア最大の水工海岸実験室と誇るところで、巨大なプール、最新な英国製の浪発生装置などが見ところです。会議の2日目の午後に実施する予定です。
　またテクニカルツーアとして、4月２７日（土）でバス移動して、揚州にある大型の河川の閘門、大運河博物館の見学です。大運河は中国の歴史にも重要な文化財であり、万里の長城と並べ、中国文明そのものといっても過言でもない土木施設です。博物館はかなり大規模で、最近できたばっかりのもののようです。
https://canalmuseum.net

（5）参加費について
　第2回で上海開催とほぼ同じぐらいの会費（約5万円）を予定しております。
　日本側の予算で、若手研究者の費用を補助する予定です。

（6）日本側参加者について
　現在日本側の参加者は５０人と予想しております。これから参加者の情報を収集したいと思います。下記のリンクにより、参加の予定について、１２月１５日を目処に教えてください。登録方法下記のリンクよりご記入をお願いします。
https://forms.office.com/r/9YF2EXWrCV

第４回日中土木学会シンポジウム　@
南京海河大学　参加登録表

委員会名：	水工学委員会			
予算執行期間：	2023年4月1日	～	2024年3月31日	
				2023/11/30
調査研究費予算	881,000			
調査研究拡充支援金	2,338,000			
予算総額計	3,219,000			
支出総額	622,327			
差引残額	¥ 2,596,673			

	年	月	日	委員会	金額	摘要	備考
1	2023	5	2	水工学委員会	¥2,992	システム費	グーグル有料アカウント
2	2023	5	10	水工学委員会	¥16,705	講演料	第20回水工学オンライン連続講演会　講演料　S-42021
3	2023	5	30	水工学委員会	¥4,200	発送･通信費	水工学委員会委嘱状発送費
4	2023	6	1	水工学委員会	¥2,992	システム費	グーグル有料アカウント
5	2023	6	15	水工学委員会	¥12,320	国内宿泊費	5/30-5/31　水シンポジウムさが実行委員会　宿泊費　R-42132
6	2023	6	15	水工学委員会	¥34,590	国内旅費交通費	5/30-5/31　水シンポジウムさが実行委員会　交通費 R-42132
7	2023	6	15	水工学委員会	¥2,500	その他	5/30-5/31　水シンポジウムさが実行委員会　株主優待券代(航空
8	2023	7	5	水工学委員会	¥2,992	システム費	グーグル有料アカウント(5/1-5/31)
9	2023	7	31	水工学委員会	¥4,532	システム費	グーグル有料アカウント(6/1-6/30)
10	2023	8	3	水工学委員会	¥99,000	システム費	災害調査写真アーカイブ
11	2023	8	10	水工学委員会	¥8,352	講演料	第27回水シンポジウムinさが　講演料　S-42317
12	2023	8	10	水工学委員会	¥89,698	課税交通費	第27回水シンポジウムinさが　課税交通費　S-42317
13	2023	8	17	水工学委員会	¥48,722	講演料	第27回水シンポジウムinさが　講演料　S-42328
14	2023	9	8	水工学委員会	¥16,705	講演料	第22回水工学オンライン連続講演会　講演料　R-42389
15	2023	9	8	水工学委員会	¥2,992	システム費	グーグル有料アカウント(7/1-7/31)
16	2023	10	3	水工学委員会	¥2,992	システム費	グーグル有料アカウント(8/1-8/31)
17	2023	10	5	水工学委員会	¥146,246	国内旅費交通費	水工学委員会　交通費　R-42560
18	2023	10	5	水工学委員会	¥19,600	国内宿泊費	水工学委員会　宿泊費　R-42560
19	2023	10	19	水工学委員会	¥64,120	国内旅費交通費	10/3-10/4　水シンポジウム2023inながの　準備会　旅費交通費
20	2023	10	19	水工学委員会	¥20,380	国内宿泊費	10/3-10/4　水シンポジウム2023inながの　準備会　宿泊費
21	2023	11	9	水工学委員会	¥2,992	システム費	グーグル有料アカウント(9/1-9/30)
22	2023	11	9	水工学委員会	¥16,705	講演料	第23回水工学オンライン連続講演会　講演料　R-42699
23							
24							